1. 議 事 日 程 (3日目)

(平成24年那智勝浦町議会第1回定例会)

平成24年3月9日

9 時 開 議

於 議 場

日程第1 議案第1号 平成24年度那智勝浦町一般会計予算…………… 122

2. 出席議員は次のとおりである。(11名)

1番	左 近 誠	2番	荒 尾 典 男
3番	下 崎 弘 通	4番	森 本 隆 夫
5番	曾 根 和 仁	6番	湊 谷 幸 三
7番	田 中 幸 子	8番	東 信 介
10番	山 縣 弘 明	11番	中 岩 和 子
12番	引 地 稔 治		

3. 欠席、遅参、離席及び早退議員は次のとおりである。

9番 田 中 植 欠席

4. 地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名(16名)

町 長	寺 本 眞 一	副 町 長	植 地 篤 延
教 育 長	笠 松 昭 紀	消 防 長	小 脇 邦 雄
参 事 (総務課長)	潮 崎 有 功	総務課新病院 建設推進室長	西 田 秀 也
会 計 管 理 者	宮 本 洋 和	病 院 事 務 長	八 木 敦 哉
税 務 課 長	濱 口 博 之	住 民 課 長	寺 本 資 久
福 祉 課 長	福 居 和 之	観 光 産 業 課 長	瀧 本 雄 之
建 設 課 長	塩 地 勇 夫	水 道 課 長	上 地 清 隆
教 育 次 長	小 玉 常 夫	総 務 課 企 画 員	畑 中 卓 也

5. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名(3名)

事 務 局 長	藪 本 活 英
事 務 局 副 主 査	加 味 根 涼
事 務 局 副 主 査	脇 地 健

~~~~~ ○ ~~~~~

9時00分 開議

〔4番森本隆夫議長席に着く〕

○議長（森本隆夫君） おはようございます。

ただいまから再開します。

本日の会議を開きます。

本日の日程は、お手元に配付のとおりです。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第1 議案第1号 平成24年度那智勝浦町一般会計予算

○議長（森本隆夫君） 日程第1、議案第1号平成24年度那智勝浦町一般会計予算を昨日に引き続き議題とします。

質疑に入る前に、質疑の方法についてお諮りします。

お手元に配付しておりますとおり、一般会計予算質疑要領のとおり、歳入は全般とし、歳出は款1議会費から款3民生費まで、款4衛生費から款6商工費まで、款7土木費から款13予備費までと分けて行い、最後に歳入歳出合わせた総括質疑を行いたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森本隆夫君） 異議なしと認め、質疑については、歳入は全般とし、歳出は款1議会費から款3民生費まで、款4衛生費から款6商工費まで、款7土木費から款13予備費までと分けて行い、最後に総括質疑を行います。

まず、歳入の款1町税16ページから款21町債49ページまでと、1ページから15ページまでの歳入の部分を含めて質疑を行います。

3番下崎君。

○3番（下崎弘通君） 濟いません、2点ほどお聞かせいただきたいと思います。

12ページの地方債の欄ですけども、この中に余り見られない字句がありますので、ちょっとお聞きしたいんですけども、市町村振興資金貸付金3億220万円ですけども、これについて、ほかの災害とか過疎債、臨時財政対策債とか、大体今までに聞いているんですけども、これについてどういう内容なのか、教えていただきたいと思います。

それから、44ページなんですけども、財政調整基金繰入金、これで本年度1億5,000万円繰り入れして、ほいで減債基金繰入金が2億3,000万円、財政調整基金取り崩しと、ほいで減債基金取り崩しということで歳入に上がっているんですけども、これの現在の残高、どれだけあるんか、教えていただきたいと思います。この2点をお願いします。

○議長（森本隆夫君） 総務課長潮崎君。

○参事（総務課長）（潮崎有功君） お答えいたします。

市町村振興資金貸付金、ちょっと詳細については資料を持ち合わせておりませんので、後でお願いいたします。

それと、繰入金の財政調整基金繰入金、減債基金の残高ということでございますが、24年度当初予算、繰り入れ後ですが、財調で1,300万円、減債で2億4,100万円となっております。

○議長（森本隆夫君） 3番下崎君。

○3番（下崎弘通君） 12ページのほうの市町村振興資金貸付金なんですけども、お答えがなかったんですけども、至急調べていただいて、据置期間が何年で償還期間がどれぐらいかかるのか、教えていただきたいと思います。

それから、繰入金の関係なんですけども、財政調整基金が今もう1,300万円しか残ってないと、それから減債基金のほうは2億4,100万円残ってるんですけども、この23年度の決算まだ、これからということで、まだ今のところ確定はしてないと思うんですけど、この23年度の決算次第では、ほとんどもう残らないという状態になるかと思うんですけども、今後基金につきましては十分、まあこれがなくなりますと財政の硬直化といいますか、そういう状態を招きかねませんので、これについては今度の決算を確定するまで待ちたいと思います。

とりあえず先ほどの市町村振興資金につきまして、わかりましたらお願いします。

○議長（森本隆夫君） 総務課長潮崎君。

○参事（総務課長）（潮崎有功君） 失礼いたしました。市町村振興資金の関係でございます。

これは、今回、24年度当初に上がっております製氷、漁会の製氷部分に係るものでございます。償還については15年償還の3年据え置きとなっております。

それと、先ほどの財調、減債なんですけども、これはあくまで予算ベースでございまして、この3月交付予定となっております特別交付税の関係、それでかなり基金への戻しができるものと考えてございます。23年度決算におきましては3億円程度の取り崩しになる見込みとなっております。

○議長（森本隆夫君） 3番下崎君。

○3番（下崎弘通君） この市町村振興資金貸付金の関係なんですけども、3年据え置きで15年の償還ということなんですけども、これについては交付税措置の補てんがあるのかないのか、ちょっと先ほど聞くの忘れたんですけども、それについてもあわせて、そのほうを教えていただきたいと思います。

その交付税措置があるかないでは、この3億220万円の返還自体が15年も、まあ3年据え置きで15年という返済になると思うんですけども、何の補てんもないというような起債であるなら大変な、町としても大きな借金となりますので、その点またお願いしたいと思います。

それから、基金のほうなんですけども、今度の特交で何らかの措置があるだろうということなんで、決算を待ってみたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（森本隆夫君） 総務課長潮崎君。

○参事（総務課長）（潮崎有功君） 交付税措置はございません。使用料、この製氷機の使用料で償還をしていくということでございます。

○議長（森本隆夫君） 6番湊谷君。

○6番（湊谷幸三君） それでは、先ほど3番議員がお尋ねをしておったんで、私は重複を避け

て、23ページの県営ため池等整備事業分担金というのをひとつお尋ねしたいと思います。

まず、この名称ですが、これ見たら与根河の池は県営でやるんやなど、県が運営していくんやなど、そういう感じをするわけですが、先ほどちょっと担当課長とのお話の中で、そうではないような気もしますが、その点についてもお答え願いたいと思います。

また、この池は一昨年でしたかね、一昨年、予算措置もされておったと思うんですが、また今度ということで2度目だと思いますが、このことについては4年ほど前、5年近くなるんでしょうかね、この所有権をめぐっても町と当該地区との間で裁判ざたにもなったということもありまして、もうこの際、どっちのもんかと、県のもんか、あるいは町のもんか、あるいは当該地区のもんか、そこらあたりをきちっとしといたほうがいいんと違いますか。これは恐らく下里と市屋の、下里の水利組合と市屋区が分担金を払うんだと思いますが、その点について、まずは担当課長の御見解をお伺いしたい。

○議長（森本隆夫君） 観光産業課長瀧本君。

○観光産業課長（瀧本雄之君） 議員今お尋ねの件、ため池の分担金及負担金の項であります、これは名称、県営ため池等というふうになっておりますので、県のため池のように感じられますが、この整備事業を県にやっていただくということで、事業が県営であるということで、こうさせていただいております。それで、国のほうから2分の1、10分の4が県、残り10分の1が地元ということで、その10分の1を受益者である市屋、下里の水利の方と町が半分ずつしております。

以前、ここに予算を出させていただいておりましたのにつきましては、災害を受けてどの程度の災害か、どの程度工事をしなければならないかという調査の予算計上でございました。今回これは実際、実施設計を組む測量設計ということで、今回はもう工事のための設計でございます。

そして、後段の質問の件のほうであります、町といたしましては従来の主張どおり、あのため池については町のものであるというスタンスでこういう予算措置をさせていただいております。

○議長（森本隆夫君） 6番湊谷君。

○6番（湊谷幸三君） 町長にお伺いしたいと思います。

町長も同じ意見だと思いますが、課長と。当該地区が自分とこのもんやと、町は自分とこのもんやという主張の中で、まだ決着がついてないんでしょう。主張の中で工事をすると、町も2分の1の負担、分担金の2分の1を持つと、10分の1の2分の1を持つと。ほて、水を利用されている方が2分の1を持つと。それはおかしいですね。そしたら半分おれとこのやという、半分町のやという、そういう考え方もされると思うんですよ。

町は、本来ならば町のものであれば全額分担金は、負担金というんですか、分担金は全額持つと。だけど水路なんか、町の水路であってもやっぱり分担金は受益者の負担金はいただくという、それと同じような形にしてるんだと思いますが、そこらあたりのことをきちっと説明してますかね。町長どうですか。

○議長（森本隆夫君） 観光産業課長瀧本君。

○観光産業課長（瀧本雄之君） 議員おっしゃるとおり、農業用の補助事業につきましては補助残の残額を町と受益者が半分ずつ負担する形で現在那智勝浦町は農業のほうの補助事業は行っております。

○議長（森本隆夫君） 町長寺本君。

○町長（寺本眞一君） 課長答弁のとおり、与根河池については町有地という認識のもとでこういう事業は進めておるところでございます。

元来、受益者というのは、その施設を利用することによって利益を得るといふ人間が応分の負担をしていただくということをや元来、本町の場合はとってきているんで、その分を負担していただいているという、ただ、向こうのうちの所有だという主張は前中村町政のときにも言われてたところですけども、見解としては町有地ということで、ただ、こちらから仕掛けていってどうのというのは、今のところ考えておりません。

前任の市屋の区長ともいろいろ話ししましたが、今回新しく区長がかわってから、その件についてはいろいろ話はしてませんが、今後またそういう面が表に出てきていろいろな弊害が生じた場合には、そのように対応していきたいと考えております。

○議長（森本隆夫君） 6番湊谷君。

○6番（湊谷幸三君） 町長、これは実施設計でもって、こんだけのお金しか、予算しか要りませんが、これが事業化されると相当の予算が、お金が要ると思うんです。それを所有権のあやふやなままの池を、片っ方は、町はひよっとしたら半分、補助金として出してるんだと、その分担金の補助金として。よくありますね、昔、漁会の施設を、漁業協同組合の施設をつくったとき、その受益者の負担金を町は補助金という形で半分持ったとか、そういうこともしておったと思うんですよ、過去に。そういう扱いかないという、そういう勘違いしますよ、勘違い。

だからここ、将来的には大きな予算が伴う工事をせんといかんので、やっぱりそれまでにそこらあたりを決着すると。市屋のもんであれば、市屋のもんにすればいいんですよ、きちっと話し合いて、うちのもんであるという主張が通るならうちに、那智勝浦町の町有財産として取り扱えばいいんです。そこらあたりをきちっとしておかんと、おかしくなりますよ。

というのは、漁会の、漁業協同組合の施設であったとしても、その負担金というのを従来半分ぐらい持ったこともありますよね、町が。そういう形かなと思いますよ、知ってる人は。どうですか、将来、近々、近い将来ですよ、このことについて話し合うつもりはありますか。

○議長（森本隆夫君） 町長寺本君。

○町長（寺本眞一君） この補修修繕の発端は、堰堤に亀裂というんですか、穴があいたということで応急に措置しなければ堤の崩壊につながるかもわからないということで調査し、県もそれによって堤の補強をやらなければいけないという結論に達したということで、これを今後やっていくわけなんですけれども、当然所有者がどっちであれ、例えば、うちの所有であれば100%うちが出すかという、井溝敷のように町有の所有であっても応分の受益者負担ということは農水の場合求めていくところでありますので、当然どっちにしる、その分については受

益者という部分の負担というのは出てこようかと思えます。

この件について早急に所有権のどうのこうのという決着をつけようということじゃなくて、これはこちらから所有権確認、確定の訴訟を起こすということも町民を相手にすることじゃないと私は思っておりますので、これは長い時間をかけてでも、その辺のどちらかということは当然確定すべきときはせないけないと思えますけれども、現在のところ、本町としてはうちの所有であるという認識のもとで、このすべてのことを主体でやっていきたいと考えております。

○議長（森本隆夫君） 6番湊谷君。

○6番（湊谷幸三君） 町長、普通、先ほども課長も言っていたように、農業施設の場合はうちの農業施設であれば、それは小さなことで、用水路の改修とかそういう小さなことであれば、予算を余り伴わないものであれば、それは受益者負担ということで2分の1、2分の1でもって水路の改修をするということもありますけど、こういうため池なんかの場合は、個人のため池でもそうでしょう、個人のため池というものもあるでしょうが、だけど、やはりそのため池の公共性というものを考えて県なり町なりが補修工事をする、そういうことをやっていますね。

だけど、やはり本来なれば町のため池であれば町が100%出してやるべしなんです。もちろん受益者負担もいただくという中でやるべしなんです。だけど財政力は町はありませんので、そんな大きなお金を、予算をそういう施設につぎ込むことは難しいという中で県がやってくれるんでしょう。県は町の所有物やと、財産やということは、県はそういう認識しておるんだと思えますよ。

だからね、やっぱし事に当たって、そこへ来てから泥縄式でやるんじゃないで、将来紛争の種になることもあるんですから、ボアオのときだってあれが発端だったんですよ。だからあそこを利用するに当たっても、将来利用するに当たっても、またネックになると思えますので、この際、こういうことも絡めてそういう話をしたらどうですか、町長。

○議長（森本隆夫君） 町長寺本君。

○町長（寺本眞一君） あくまでもうちの所有ということで、私は認識しておりますので、その方向でやっていきたいと。

ただ、一時中村町政のときに訴訟を起こされましたけれども、その訴訟が本格訴訟までいかず、取り下げて終わってしまっているというところで、そのときに決着をつけられなかったというのが、それは相手方からの提訴でありましたので、その辺についてはこちらから強いて所有権の確定訴訟を起こすというようなことは、もともと自分のほうの土地という所有の認識しておりますので、なかなかそれはしにくいかと。ただ、今後はそういうことの事案で相手方が出てくれば、その辺についてはそれなりの対応を、措置をしていきたいと考えております。

○議長（森本隆夫君） 6番湊谷君。

○6番（湊谷幸三君） 町長、登記は市屋中、下里中となっているんですよ、登記は。ここのところを直さんと、那智勝浦町のもんやと、所有権は那智勝浦町にあると言っても、ここをほっといて、そういう主張をしても始まらないと思うんです。まず直さな。法務局へ行ってみなさいよ。

市屋中、下里中、「中」という字を書くんですけど、なってますよ。「中」というのは何なと、地下のもんやという、そういうふうな解釈です、中という。その点についてもよく調べて、どうしたらええかということについて、担当課なりにでも指示する気持ちはありますか。

○議長（森本隆夫君） 町長寺本君。

○町長（寺本眞一君） 当時町村合併のときに、太田村の中の市屋中ということで、それは当時は太田村の所有物という認識の中でやってきていたということだったと思うんです。そういうことが町村合併によって各自治体の財産枠を統一、自治体の所有になるということになって、それが現在に至ったんだというように思ってたんですけども、その辺が私の解釈が間違っておれば、また担当のほうにも指示して、どういうふうな解釈をしてどういうふうな対応をすべきかというのを検討はさせておきたいと思います。

○議長（森本隆夫君） ほかに質疑はありませんか。

8番東君。

○8番（東 信介君） 25ページなんですけど、ささいなことなんですけど、ちょっとお聞きします。

民生費の中の節の町民センター使用料2,000円て上がってるんですけど、これ僕の認識的には町内の人は無料で町外の人が使用されているのが2,000円ぐらい予定しているのかなと思うんですけど、使用に当たっては町内町外とか、そういう無料とか有料とかという規約はどういうふうになってるんか、教えていただきたいなあとと思って、よろしくをお願いします。

○議長（森本隆夫君） 福祉課長福居君。

○福祉課長（福居和之君） これは町内町外、関係なしに、町民センター等事業とかに全く関係ない方については200円いただくと、半日について200円いただくということになっております。

○議長（森本隆夫君） ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森本隆夫君） 質疑なしと認め、歳入全般についての質疑を一時中止します。

次に、歳出の款1議会費50ページから款3民生費93ページまでと、1ページから15ページまでの議会費から民生費までの部分を含めて質疑を行います。

5番曾根君。

○5番（曾根和仁君） 2点、質問させていただきます。

63ページの総務費の目10町営バス運行費で備品購入で小型バスを1台購入される350万円ですけれども、バス購入、新しくなることはよいことなんですけれども、太地町なんかは循環バスに自分の町をPRするような鯨の絵をかいたり、ちょっとした言葉も書いてますけど、そういうことも那智勝浦町としても観光の町なんで、そんなに費用がかからないんだったらやったらどうかなあとということを提案します。

それと、次の64ページの目12台風12号災害事後対策費のこれは基金取り崩し、約1,000万円取り崩して災害祈念公園をつくる費用のようなんですけれども、公有財産購入するというんですけども、具体的にどこの場所をどういように買って、どういうふうに整備するかっていう、この

図面のようなものが提出していただかないと判断がしにくいというんで、もしすぐ提出できればありがたいと、なければ詳細に言葉でもよろしいんで説明してほしいんですけど、できたら図面が欲しいと思います。

そして、この災害祈念公園という名前、名称ですけど、これはもう正式名称として決まっているのかどうか、この言葉の使い方として、この場合この「祈念」、使い方が悪い、間違ってるんじゃないかなあと思うんです。もし「災害祈念」という言葉だったら記録の「記」を使うべきだと思うんですけど、その辺についてもお尋ねします。

○議長（森本隆夫君） 総務課長潮崎君。

○参事（総務課長）（潮崎有功君） まず備品購入、63ページの小型バスの購入です。

それに宣伝というんでしょうか、観光PRみたいなものをしてらどうかということでございますが、今のところ予定はございませんけれども、検討をさせていただきます。

それと、災害祈念公園、これ正式にこういう公園の名前が決まったわけではございません。

地図ということでございますが、本日提出はしておりませんが、井関地区の県道、魚の首というのは御存じでしょうか。市野々に入る旧道、県道から市野々の旧道に入る一番井関の上と申すでしょうか、その3軒分の土地を予定してございます。

地図の提出、後でさせていただきますので、よろしく願いいたします。

○議長（森本隆夫君） 5番曾根君。

○5番（曾根和仁君） 名称がまだ正式に決まってないということでしたんで、ちょっと安心したんですけども、もし名称をつけるのであれば、この「祈念」というのは「祈り求める」というような意味で、沖縄の平和祈念公園なんかはこの「祈念」を使って平和を希求するという意味なんですけど、この災害祈念というやつ、災害を求めるという意味、反対の意味になってしまうんで、もしこの祈念を使うんやったら「災害復興祈念」。

今度国が東日本大震災で国交省がつくろうとしているのは「大震災復興祈念」でこの「祈念」を使ってるんですけど、復興を入れないんだったら災害、さっき言った記録の「記」っていうふうには、その辺をちょっと確認を、間違いないように確認をしたいと思います。

○議長（森本隆夫君） 町長寺本君。

○町長（寺本眞一君） 名称については今後検討してですね、当初予算で上げるときにいろいろなことを言ってたんですけども、差し当たって名称的なものについては遺族会が慰霊碑をつくるということで、本町の場合はその横にこういう災害があったという碑をつくるという、その辺でこの災害を忘れてはいけないという戒めとしてやっていくので、その辺についてのぴったりの言葉があれば、そのような形で表現していきたいと思います。

○議長（森本隆夫君） 6番湊谷君。

○6番（湊谷幸三君） 私も5番議員がお尋ねした64ページの台風12号災害事後対策費についてと、子ども医療費についてお伺いしたいと思います。92ページです。

災害祈念公園用地取得で500万円計上されてますが、この用地は、どうですかね、これは災害に、復興に対する寄附金でもってこの予算措置がされるわけなんですかね。それを復興に有効

に使うということであれば、この500万円をですね、町有地がないんですか、あの辺に。町有地があるんだったら町有地を利用すると、この500万円についても、もっと有効に使える、被災地の復興に寄与するような、有効に使えるような予算措置を、将来ですよ、したほうがええんやないかと、そういうふう思うんですが、その点についてお伺いしたいと思います。

そして、子ども医療費ですが、この15歳までの子供に適用すると。今まで6歳まででしたね。それでもって8月からやるそうなんですけど、これは恒久的、条例も改正しましたんで恒久的なものになると思うんです。この点、これで恒久的なものになるのであれば、これは交付税措置とか補助金がないということでありまして、一般財源からどのぐらい持ち出したらええのやと、この分だけですよ、この分。6歳までだったのが15歳に延長した、その分でどのぐらい1年間に今度は費用が要るんか、その点についてもお伺いしたいと思います。

○議長（森本隆夫君） 総務課長潮崎君。

○参事（総務課長）（潮崎有功君） 公有財産の購入費500万円の件ですが、町有地はないのかということですが、現在考えておりますこの土地でございますけれども、県道の歩道幅によりまして現在買収を進めておりますけれども、その一番被害の多かった地域、被害者が出た地域ということで、その県の買収の残地を購入いたしまして、そこにつくるということですが、この件につきましては、市野々区、井関区、八反田区から一番被害の多かった中心地という要望がございます。それと、遺族会からも要望が来てございます。その関係でこの公園をそこにつくろうということになった用地購入費となってございます。

○議長（森本隆夫君） 住民課長寺本君。

○住民課長（寺本資久君） 乳幼児医療費から子ども医療費に変わった関係ですけど、昨日の予算説明の中では8月からの実施ということで約800万円を見込み計上させていただいておると申しました。この単価、国保から算定した関係で医療費1万4,000円の970人分ということで申し上げましたが、年間にしますと、やはり同単価1万4,000円の970人分を見ますと約1,300万円から1,400万円ぐらいになるうかと見込まれます。この財源につきましては、昨日も申し上げましたように補助対象外となっておりますので一般財源ということになってきます。よろしくをお願いします。

○議長（森本隆夫君） 6番湊谷君。

○6番（湊谷幸三君） 地区からの要望、あるいは遺族会の皆さん方の要望ということですが、その前に、こういうこともしたいんだということは、考えているんだということは相手さんにお伝えしてあるんですね。そういう中で、町有地、私先ほどお尋ねしたのは、町有地があるんかないんかということもお尋ねしたと思うんです。

私が聞くところによると、あそこ町有地、市野々地区、井関地区にあると思うんですね、あるというお話も聞いてあるんで、そこらあたりも最初に、こういう町有地へつくりたいという話もされたんかどうか、もう最初から民有地を買い上げてというお話であったんかどうか、その点もお伺いしたいと思います。

今の子ども医療費、医療対策費ですが、1,300万円から1,400万円というお話も説明をいただ

いたんですが、これは前年度との比較で1,152万7,000円増加してあるんですね、8月からであったとしても。これからいうと1,300万円や1,400万円では済まないと違いますか。その点についても少し説明願いたいと思います。

○議長（森本隆夫君） 総務課長潮崎君。

○参事（総務課長）（潮崎有功君） この公園用地でございますが、当初いろんな場所を検討いたしました。その中で、先ほども申し上げましたように、一番被害が多かったところにつくってほしいという区からの要望、遺族会からの要望が、強い要望がございまして、今回の予算を上げるもとなったわけでございますが、初めからここというわけではございませんで、いろいろ検討をさせていただきました。ただ、地元の方の一番被害が大きかったところにつくりたい、災害復興のシンボルとなる公園ですので、被害の大きかったところにつくりたいと強い要望がありましたので、今回お願いした次第であります。

〔6番湊谷幸三君「町有地は近くにあるの」と呼ぶ〕

町有地はございません。

○議長（森本隆夫君） 町長寺本君。

○町長（寺本眞一君） 町有地はあるにはあります。平野川の上のところに農地としてありますし、あと、市野々小学校から下るとこ、300メートルぐらいのところに町営の住宅があるところは、まだあそこは町有地になっておりますけども、そのほかのところ町有地というのはありません。公園は別として大門坂駐車場、小学校裏の水辺公園あたりは町有地でありますけれども、その適当な場所というのは町有地としてはございません。

○議長（森本隆夫君） 住民課長寺本君。

○住民課長（寺本資久君） 24年度当初予算では今年度2,846万円に対しまして前年度より1,150万円余りの増となっております。24年度に限りましては、昨日少し説明させていただきましたように、これに係る電算システムの改修が必要となってまいります。200万円計上させてもらっております。

それと、私先ほど1,300万円から400万円と言わせていただいた関係は、あくまでも扶助費の医療費に係る関係でございまして、あと少し診査支払委託等の関係も出てきますので、今年度は1,152万7,000円の増となったものでございます。

○議長（森本隆夫君） 6番湊谷君。

○6番（湊谷幸三君） 用地の選定については遺族会からの強い要望があったということですね。市野々あるいは井関地区においても適当な場所が、町有地がなかったという認識でよろしいですか。

○議長（森本隆夫君） 総務課長潮崎君。

○参事（総務課長）（潮崎有功君） はい、そのとおりでございます。

○議長（森本隆夫君） ほかに質疑はありませんか。

7番田中君。

○7番（田中幸子君） ページは79ページです。節区分19の負担金補助及交付金というところで町

シルバー人材センター補助金150万円というのがあるんですけども、説明で70名の会員さんがおられると聞かせていただきました。仕事の内容もあると思うのですが、今仕事に実際つかれておられる方はどれくらいおられますかっていうことと、それからもう一点、福祉乗車券助成というのが80ページにあります。このことについても利用者の方ですけども、どのように対応しておられるのか、お聞かせください。

○議長（森本隆夫君） 福祉課長福居君。

○福祉課長（福居和之君） シルバー人材センターの補助金でございますが、一応23年度の総会的时候には会員70名おります。今のところ、平成23年度で実績はまだ出ておりませんが、平成22年度の業務受託件数につきましては814件ございます。作業収入が1,500万円、歳入決算額が1,900万円でございます。

仕事はほとんどが墓地清掃、草刈りが主でございます。一応会員で回しているという状況でございます。今なかなか仕事もなくて会員も減っているような状況が現状でございます。

福祉乗車券でございますが、これは70歳以上の町県民税の非課税の方を対象に2,237人、今回3,000円の乗車券を計上させていただいておりますが、この対象者に対しまして発行率を70%、使用率を80%として上げさせていただいております。実績に基づいてこういうパーセンテージでさせていただいてるんですけども、22年度の実績でございますが、そのうち、大体いっつもは対象者2,000人ぐらいはあるんですけども、実績については1,185名、これは22年度ですけども、276万500円ほど支出しております。

以上が現状でございます。

○議長（森本隆夫君） 7番田中君。

○7番（田中幸子君） シルバー人材センターでの仕事もなかなか草刈りだけということで少ないということでは大変だと思うんですが、60歳以上からということで仕事も必要な方もおられると思うんですけど、事情的に仕事がそういうことで大変な状況だということをお聞かせいただきました。

あと、もう一つの福祉乗車券のことなんですけども、その上げられてる人数の方の、まあ自分がこれに適用するかなあとということで使えるなというふうに思われた方で高齢の方なんですけども、必ず役場のほうへ来て手続をしないとこれは、乗車券は受けられないということでしょうか。

○議長（森本隆夫君） 福祉課長福居君。

○福祉課長（福居和之君） 5月の税金の納付の出張徴収のときも地元へ行って配布もさせていただいております。

○議長（森本隆夫君） 7番田中君。

○7番（田中幸子君） 再確認ですけど、そしたらそういう人には必ず漏れもなく渡せてるということですね。

○議長（森本隆夫君） 福祉課長福居君。

○福祉課長（福居和之君） 漏れもなくじゃなしに、必要でない方もおりますし、全部が全部来る

わけではございません。

○議長（森本隆夫君） 8番東君。

○8番（東 信介君） お二人の議員さんに関連して、その台風12号の件で64ページですか、節15と17なんですけど、工事請負費で造成と植栽400万円ですか。これ大体の図面があるからこの金額が出てきてるんやと思うんですけど、簡単な説明と公有財産の500万円の件、これはある程度の坪数、何坪あるとか評価額が幾らとかということがあっての500万円やと思うんですけど、その辺のやっぱり図面とかがなかったら、例えばこれ適正価格より高いんやないかという判断もしづらいで、休憩しても結構だと思うんですけど、この図面とかそういうのをいただきたいと思うんですけど、よろしくをお願いします。

○議長（森本隆夫君） 休憩します。

~~~~~ ○ ~~~~~

9時57分 休憩

10時27分 再開

~~~~~ ○ ~~~~~

○議長（森本隆夫君） 再開します。

総務課長潮崎君。

○参事（総務課長）（潮崎有功君） 貴重な時間を費やしました。申しわけございません。

今お配りいたしました地図をごらんいただきたいと思います。

公園用地の、まず1枚目が場所です。県道から市野々地区に入ります旧道に入る一番井関の上側と申しましょうか、この場所になっております。

2枚目をお願いいたします。

広さ100坪でございます。

それと、先ほどの工事請負費の内訳でございますが、400万円の内訳でございますが、整地に60万円、擁壁に340万円、400万円をお願いしてございます。

公有財産の購入費500万円の内訳でございますが、県の売買価格を参考にいたしまして、その5割以下で交渉する予定でございます。坪5万円の100坪500万円をお願いしてございます。

よろしくをお願いいたします。

○議長（森本隆夫君） ほかにありませんか。

2番荒尾君。

○2番（荒尾典男君） 63ページですけど、町営バスの運行費ですね、これで2台で1日3往復、太田色川線ということなんですけど、1日3往復で2台ということは、今度この備品購入費で350万円で15人乗りのバスが1台購入して書いてますけど、多分2名の、バス運行委託は2名の運転手さんがいると思いますので、それで、余った時間というのがもしあるんだったら、この大勝浦とか町内のほうの、前は今の浦島のところですと漁民グラウンドのところで大勝浦のバス停があったらしいんですけど、山縣町長のときに町内バスがあったようで、今回今度北浜のほうのオークワが店閉めて、みんな困ってる方がちょっと多いようなので、もしこれで余って

る時間ができるんやったら、この人戸のほうへある程度部分も運行できるような形はとれないかどうかというのをお尋ねしたいんですけど、お願いします。

○議長（森本隆夫君） 総務課長潮崎君。

○参事（総務課長）（潮崎有功君） お答えいたします。

町営バスにつきましては熊野交通と競合するところもございまして、今のところ変更する予定はございませんが、オークワですか、北浜、それにつきましては熊野交通のバス、あそこの田中衣料店でしょうか、そのあたりも通りますので、北浜回りとか大勝浦、今のところは特に考えてございません。

○議長（森本隆夫君） 2番荒尾君。

○2番（荒尾典男君） 今言うてたその北浜回りっていうのは、あそこら辺回ってますけどバス停はないですね。結構お年寄りの方が大勝浦とか、また足の悪い方も結構多いようで、やっぱり町内を有料でもいいんで回ってもらえることができればありがたいという声が多いんですけど、大勝浦の人は特にかなりの距離があると思うんです。今度の病院でもそうなんですけど、病院に行くにしても、なかなか買い物もちょっと遠いんでということで町内のバスをぜひお願いしたいということなんですけど、ここで熊野交通に委託されているこの1,090万円というのがその人の人件費だと思うんですけど、その委託料自体が。それで2名分であったとしたんやったら、どこまで委託している人の時間拘束があるかもしれないんですけど、もし2台のうちの1台が半日ぐらい回るようやったとしたらできるん違うかなということは思うんですけど、そこら辺どうですか。

○議長（森本隆夫君） 総務課長潮崎君。

○参事（総務課長）（潮崎有功君） 熊野交通委託なんですけど、運行について委託してございますので、時間の余裕というのはとれないと思います。

○議長（森本隆夫君） ほかにありませんか。

11番中岩君。

○11番（中岩和子君） お尋ねをいたします。

先ほど来より皆さんお尋ねになっておられます64ページの災害祈念公園用地取得についてでございますけど、先ほどこの地図をお配りいただいたんですが、これを見ましたら、今現在その碑が建つところなんです、遺族会の方が碑を、きのうテレビでもやっておりましたんで、ちょっと驚いたんですけど、建つところなんです。そのところをお買いになるということでございます。それを、碑が建つのはどうのこうのということではないんですけど、ただ、町のほうで9月に町の慰霊祭を行うということを予定されていると思うんです。そういう中で、もう早速に、この議会にもまだ何も通ってない時点から、もう町が買うてくれるんや、あそこの土地は町が買うてくれるんやさかい建てやるんやといううわさは私は聞いておりました。ええと思うてたんですけど、やはりその所だったんです。

そういうふうな、この予算を見ましても、これは復興のために本当に真心の御寄附をいただいたお金からこれ出されるようになっております。やっぱりこれは復興のために使ってほしい

という、本当に皆様方の真心のお金だと思うんですね。その真心のお金を使うのにどれだけ検討したか、本当にそのことが、今家がなくて困ってらっしゃる方もたくさんおられます。本当にそういう方の復興のために使っていただきたいという思いで皆さん御寄附くださったんだと思うんで、どれだけ、まあこの慰霊碑をつくることに反対とかと言うんじゃないですよ、これはつくるべきやと、町のほうがやるというんですから、9月にやるというんで、それはもう大いに結構なことだと思っておりますんですけど、どれだけ審議したんか、どのようにしてここに決めたんか。ただ遺族会が言うてきたさかいやりましたというだけのことやなくて、じゃ本当にその場所がよかったんか。これ見ましたら三角地ですわ。ひょっとしたら、うちのほうには公園が幾つもありますんで、先ほど言われておりましたように新宮市なんかは公園のところへ建てております。公園のところへ建てればこの500万円が浮いてくるんやないか、またこの造成や植栽の工事費も要らないんやないか、そこら辺で節約できるんやないか、そのお金をそういうふうな本当に復興で現実にこれから生きていこうとしている、まあお亡くなりになった方にはもうお気の毒ですし、またその方も慰霊せなあかんのは本当に思います。だけど、そのところを今度は家を建てる方に少しでも、畳の1枚でも買えるだけの補助はできないか、そういうふうな、例えばそういうふうな検討はされたのでしょうか、そこら辺をお尋ねをいたします。

○議長（森本隆夫君） 総務課長潮崎君。

○参事（総務課長）（潮崎有功君） お答えいたします。

この災害復興のシンボルとなります公園用地でございます。今議員さん言われましたその寄附金を使ってということなんですが、この寄附金の中に慰霊祭、慰霊碑を建てる目的で使ってくださいということでした。いただいた寄附金も含まれております。そのことも含まれておりますし、先ほども申し上げました、この地域が一番被害が大きくて犠牲者も出た、ちょうど真ん中の土地であるということで、先ほど申し上げました3区からの要望、遺族会からの強い要望もございまして今回お願いをしたということになります。

○議長（森本隆夫君） 11番中岩君。

○11番（中岩和子君） それはもう重々先ほどの説明でわかっております。

どれぐらいのこのことについて、どれぐらい検討されたのか、どうでしょうか。内部だけでちょっとやったんか、いやいや、それじゃその遺族の方々に寄っていただいて、こうしますよというような会を持ったんか、そこら辺はいかがなものでしょうか。

○議長（森本隆夫君） 町長寺本君。

○町長（寺本真一君） お答えします。

再三にわたり3区長と遺族会の代表の方が町へ来ていただいて、その辺については協議して、その場所で皆さんが納得するんであればということで決断いたしました。

○議長（森本隆夫君） 11番中岩君。

○11番（中岩和子君） 何かするときには、やっぱりしっかりとみんなが納得できるような、そういうふうな審議をして、なるほどそれならいいんやないかというような格好に持っていきける

ように、しっかりと審議をしていただきたいと思います。

今回なぜこういうふうなことを言うてるかという、まだ議会のほうへ議案書も出てきてないうちに、もう町がここを買ってくれるんやという遺族の方々のお話も聞きました。もう土地買ってくれるさかい建てやるんやというような話もある。まだ何もうちで予算も通ってないときから、まあ遺族の方がやられるのは別にそれは結構なことなんで遺族会の碑を建てられるのは遺族の方が今建てられてるんで、それはどうこう言うんじゃないんです。ただ、そやけど、そういうふうなうわさが流れるというようなことのないように、土地を町が買ってくれるからというようなことは、もう流れておりました。だからそういうことのないように、きちっと順序を踏んで、みんなが納得してできるようなことに進めていただきたいと思いますんで、町長、よろしくをお願いします。

○議長（森本隆夫君） 町長寺本君。

○町長（寺本眞一君） 遺族会の方が来て、土地を買うとか買わんとかというよりも、うちはその予定で進めたいと思いますということを言ったら、あそこへ仮にですよ、慰霊碑をもう用意しているんで建てさせてくれないかと、まあ建てさせてくれないかと言っても、その地主との話もまだ正式についてませんので、皆さんが関係者がおるんで、それでええて言うんであれば、そこはしといていただいても結構ですと、ただ、次の整地するときにはその慰霊の碑をつくったところをちょっと移設を、まあ別のところへ、その地内でありますけれども、やりますよということは私のほうも了承はしたんです。ただ、そのときに遺族の方が買ってくれるとか買ってくれないかというような問題については、その遺族の方が言われたことについては私も関知してませんので、その辺については今後ないように頑張ったいと思います。

○議長（森本隆夫君） 6番湊谷君。

○6番（湊谷幸三君） 遺族の方が慰霊碑を建てると、それをそのままここへ残すのであれば、その復興祈念公園というのはおかしいですね。「祈念」が曾根議員が言われるようにごんべんの「記念」を書いたとしてもおかしいですね。遺族が慰霊碑を建てるんでしょ、慰霊碑を、この間のこの前からの報道を見ると慰霊碑を。慰霊のための公園であれば、また十分名称についても考えてもらわんといかんと思うんで、その点、よろしくお願ひしたいと思います。これ私、先ほど質問しましたんで、答えは要りませんが、緊急的な質問といえますか、お願ひといえますか、そういうことでひとつとらえていただきたいと思います。

○議長（森本隆夫君） ほかに質疑ありませんか。

10番山縣君。

○10番（山縣弘明君） 何点か、お願ひいたします。

まず57ページ、節15の工事請負費、タンクの入れかえ工事についてであります。

この入れかえるタンクの現行タンクの設置方法と容量、それから新設タンクの設置方法と容量について確認をさせていただきます。

続きまして68ページ、節12で説明のございました手数料の中のコンビニ納税の件でございませう。たしか23年度初めてのコンビニ納税だったと思います。現在わかる範囲で結構ですので、

その効果について教えていただきたいと思います。

ちょっと前後いたしますが、60ページ、たしか節11の中でふるさと納税の御説明があったかと思えます。ふるさと納税の検討を今されている内訳ですね、どのような内容を検討されているか、例えば件数はどれぐらいを見込んでおられるか、また1品当たりの単価はどれぐらい検討しているかという点についてお聞かせください。

同じく節18の世界遺産情報センターの備品、聞き漏らしたのかもしれませんが、どのような備品購入を検討されているか、お聞かせください。

続きまして64ページ、これも多くの議員からの指摘があった点でございます。これはもうお願いでございます。公有財産購入費の中の災害祈念公園用地取得、この名称についてであります。これまでも、例えば災害直後に、たしかこういうことがあったと思えます。「被災者対策支援室」というものが最初新聞に載って、その後に「被災者支援対策室」というふうに名称が変わったと思えます。今回も、もう既にこの名称が「災害祈念公園」というふうに報道されてしまっているんですね。今後こういう、明らかにおかしいと思われるような名称のつけ方のないように、より一層慎重に検討を重ねていただきたいなあと、そんなふうに思います。

もう一つ、77ページ、節19の町社会福祉協議会補助金。例えば、観光協会でありましたら関係資料として非常に細かな資料が提出されております。同様に町の社会福祉協議会も町から補助金を出されている団体でありますので、この金額の根拠について、もしできましたらお示しいただきたいと思えます。

○議長（森本隆夫君） 税務課長濱口君。

○税務課長（濱口博之君） 濟いません、先に税務課の関係についてお答えさせていただきます。

コンビニ納税のその効果についてということで、議員おっしゃいますとおり、23年度4月から初めて行ったもので、3月が来ておりませんので最終の1年間の結果はまた3月過ぎて、それ以降の総務委員会等で報告したいと思えますが、1月末現在で現年度分のコンビニ収納の件数の割合では約7%、5,219件の収納がございました。また滞納でも296件、割合にして4%程度のコンビニ収納がございました。初めての年度ということで、これからも少しずつ割合は伸びていくものと考えております。

実際にお客様の聞いた範囲内では、コンビニ収納していただいた方にお聞きしますと、やっぱり便利になったね、待たなくて済むからいいねとか、時間に制約がないので実際にしていただいた方には好評をいただいております。

また、事務の中でもかなりインターネットと申しますか、電子化が進んでおまして、翌日には速報データでだれだれが幾ら入ったよとかというのが来ます。それから少し日がたってから確定データとして収納しましたその件数とかが電送で送られてきます。会計にはそれから入るんですけども、その辺でかなり手間が実際に要らないというメリットもございます。また、今までやってきた中で大きなトラブルもなく順調に進んでおります。

新しい時代に向けてこういうやり方がこれからもっと進んでいくものと考えております。こちらのほうも、もっと積極的に調査して、いい方法があれば新しい納付方法としてそういうこ

とを取り入れていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（森本隆夫君） 総務課長潮崎君。

○参事（総務課長）（潮崎有功君） 総務課の関係、お答えいたします。

まず、地下タンクの関係でございます。

工事請負費、重油タンク入れかえ工事387万7,000円でございますが、空調で使っております重油タンクでございます。これにつきましては消防法の関係で新しいものをとということでございます。その容量ということでございますが、現在使っております地下タンク4,000リットル、これの廃止工事、4,000リットルですね。それと新しくつくります屋内タンクですが、現在のボイラー室、2基ありましたものを1基、今回空調工事で使われなくなったものを取り除きまして、現在のボイラー室に室内タンクとして1,900リッターの設置工事を行います。

それと、ふるさと納税の関係です。

60ページ、11の需用費、消耗品費の中でございます。説明でも申し上げましたそのふるさと納税寄附者にお礼として地元産品のものを送りたいということでございます。この控除の関係ですが、所得控除の関係、昨年、23年6月までは5,000円で行ってまいりましたが、地方税法の改正によりまして2,000円となっております。その税控除の対象とならない部分に対して地元産品を送りたいということでございます。予算的には20名分を予定してございます。方法といたしまして、近隣では串本町が実施をしております、そこに問い合わせをしたところ、商工会に幾つかの地元産品を選定を依頼いたしまして、その寄附いただいた方に選んでいただくという形をとっておりますので、当町もその方向で検討したいと思っております。

それと世界遺産情報センター、60ページ、世界遺産情報センターの備品でございますが、タブレット端末5万円をお願いしております。これにつきましては地図であるとか、施設の案内というものをインターネットでタッチパネル方式の案内板というんでしょうか、そういうものの端末を取りつけないかと考えてございます。

それと、災害祈念公園の名称ですが、御指摘のとおり、今後十分検討をしていきたいと考えてございます。

○議長（森本隆夫君） 福祉課長福居君。

○福祉課長（福居和之君） 社協関係の補助の関係でございますが、補助金につきましては1,908万円についてですけども、要求額に対し1,908万円をお願いしております。

この説明でも申し上げましたが、要求額の内訳は会長報酬57万6,000円、給与助成が1,604万円、そして事業助成が308万8,000円ということで、資料はございませんが、この事業助成につきましては食事サービスの関係で45万円、そして喜寿の集いで142万8,000円、地域福祉活動推進費として60万円、地域福祉事業費、これはふれあいいきいきサロンで、南平野とか田垣内、大野、小阪、口色川、里、中里地区、そして夏のボランティア体験、高齢者・保育園児のふれあい交流、ふれあい友愛訪問事業、福祉体験学習、色川ミニデイサービス事業に対して補助しているわけでございます。ほかに補助していない分につきましては、小地区見守り活動支援、

そして福祉委員研修補助、福祉健康まつり、心配ごと相談事業、生活資金貸付事業、福祉用具貸付事業、福祉車両事業、ふれあい食事会、福祉啓発事業、広報年6回発行、福祉サービス利用支援援助事業、法人後見事業、福祉団体助成事業などの事業を社会福祉分野で行っています。

これ以外に、うちの要求に対しては通常の社会福祉予算では3,500万円ほどの予算でございますが、これ以外に介護福祉事業で9,754万円ほどの介護事業のほうがございます。ほかに福祉基金の事業としまして560万円、それで共同募金事業の関係で140万円ほどありまして、あと繰越金と合わせまして社協全体で1億7,449万4,000円の24年度の予算を組んでおることになっています。

議員おっしゃられました資料に関して、これを全体まとめまして、根拠資料を今後これから努めてまいりたいと思います。

○議長（森本隆夫君） 10番山縣君。

○10番（山縣弘明君） ただいま御説明いただきました中の、まずコンビニ納税、非常に予想していた以上の効果があったものと見受けられます。

随分以前から一般質問でお願いしておりましたが、ようやく今年度になってこれに取り組んでいただきまして、その効果が早速出ていたことを大変うれしく思います。残念なのは、もっと早くこれができておればよかったのになあというところは残念ではありますが、今後このコンビニ納税が、より一層活用されますように住民の方への告知も今後とも継続していただきたいなあと思います。

ふるさと納税についてであります、どのような形で町外の方々にそれを告知、広報されていく予定なのか、その点が非常に重要だと思いますので確認をさせてください。

それから、タンクの件であります、これまでは地下タンクだったと、それが屋内のタンクに変更されるということでもあります。危機管理上、その点、どのような認識を持っておられるのかという点について確認をさせてください。

社会福祉協議会の関係であります、今課長御説明いただいた後段にありましたとおり、やはりその中身として大変興味がありますので、よりわかりやすい、あ、こんな活動をしていたらいいんだなということが私たちにもわかるようにお示しいただければと思います。

その中で感じたことが1点、社会福祉協議会の重要な機能の一つとしてボランティアの人材育成であるとか、発掘であるとか、ネットワークづくりであるとか、あるいは子育て支援であるとか、そういったことがあるかと思いますが、子育ての関係は少し、1つか2つぐらい、今説明の中であったように思いますが、それ以外はほとんどが高齢者の方々への対策であったり介護の関係であったりというふうに見受けられました。全くやはり欠けているなあと思ったのがボランティアの関係であります。

社会福祉協議会の存在意義というのは、そこは今回の災害で、より一層明確になったものと思われるので、ボランティアの人材育成、発掘、ネットワークづくり、災害ボランティアだけではなくて、まちづくりのボランティアの育成も含めて社協のあるべき姿というものをしっかりと認識を持っていただきたいと思います。

○議長（森本隆夫君） 総務課長潮崎君。

○参事（総務課長）（潮崎有功君） ふるさと納税の広報ということでございますが、ホームページはもちろんでございますけれども、今回議案として補正をお願いいたしましたdボタンの関係、テレビ和歌山の関係がございます。その広報できるものについてはこういう制度があるんだということを広く広報していきたいと考えてございます。

それと、地下タンクの危機管理ということでございますが、見積もりを依頼しました業者の方にもお聞きさせていただいたんですが、室内でありますけれども、現在のボイラー室、裏口にあるんですが、庁舎内のボイラー室であるということ、議員さん言われるのは津波等の被害のときということだと思います。室内でもありますし、特に庁舎の裏側でもあります。そういう津波、地震、大丈夫かという確認はさせていただきましたけれども、業者の方には大丈夫ということをおっしゃっていただいておりますので、この屋内用の重油タンクということを今回お願いしたわけでございます。

○議長（森本隆夫君） 福祉課長福居君。

○福祉課長（福居和之君） 今指摘にございましたボランティアのまちづくり関係、そして子育て支援の関係、昨年、たしか12月にも質問ありまして、社協のほうの事務局長にはこういうことをこれから今後考えるようにということをお願いしております。今後また事務局のほうへ理事会でも諮っていただくよう、検討してもらおうようお願いを申し上げてまいりたいと思っております。

○議長（森本隆夫君） 10番山縣君。

○10番（山縣弘明君） 社協の件につきましては、今課長の御答弁にあったとおり、子育ての関係、それからボランティアの関係、新しい事業に取り組むというつもりで具体的に組み込んでいただき、それを私たちにもこんなふうなことをやってるということのお示しをぜひお願いいたします。

ふるさと納税につきまして肝心なところは、先ほど申し上げましたとおり、どのように告知するかという点であります。効果のある告知にはどんな方法があるのかということをしっかりと考えていただきたい。ホームページだけではなくて、ホームページを見る機会もない方もたくさんおられますので、例えば観光協会と連携するとか、商工会と連携するとかという方法は十分一つの選択肢としてあると思います。そこら辺との連携をしっかり検討していただきたいと思っております。

タンクにつきましては、これまで地下タンクだったものがなぜ屋内タンクに変更されるのかというところがもう一つ疑問として残っておりますので、その点の御説明だけをお願いいたします。

○議長（森本隆夫君） 総務課長潮崎君。

○参事（総務課長）（潮崎有功君） ふるさと納税につきましては、今議員がおっしゃいましたように検討させていただきます。

それと、地下タンクなんですけど、現在使っておりますタンク、説明でも申し上げました消防

法の関係で中にコーティングをするか、または新しいものをとということでございます。

現在庁舎内の空調をこの23年度で完成をいたしました、それは庁舎内の半分でございます、片一方のボイラーというのは現在まだ生きてございます。その関係でその容量として小さいもので1,900リットルで間に合う、半分につきましては今までのものを使うという形になります。容量が半分での工事ということでございます。今まで使っておりました地下タンクを修理するというのは金がかかりますので、今回半分の1,900リットルの屋内タンクをお願いしたということでございます。

○議長（森本隆夫君） ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森本隆夫君） 質疑なしと認め、款1 議会費50ページから款3 民生費93ページまで、1ページから15ページまでの議会費から民生費までの部分の質疑を一時中止します。

次に、款4 衛生費94ページから款6 商工費121ページまでと、1ページから15ページまでの衛生費から商工費までの部分を含めて質疑を行います。

5 番 曾根君。

○5 番（曾根和仁君） 少し多いんですけど、4点、質問をさせていただきます。

最初に105ページ、目3の農業振興費の委託料の人工衛星による食味測定業務委託の59万3,000円ですけども、これは一昨年、おとしは非常にデータの余り食味がよくないようなデータが出たという、そして昨年度はじゃあどうだったのか、その反省が生かされて、よいデータが出たのかどうか、その辺がちょっと気になりますので説明をお願いします。

次に、112ページ目2の水産振興費の中の節19の負担金補助及交付金で水産振興会への補助金の2,100万円ですけど、例年でしたら水産振興会へは700万円とか800万円ぐらいの補助金が行ってるんですけど、今年度のこの2,000万円と多いのは、この間の課長の説明ですと渡の島のとこの放水、給水のところを振興会に直してもらうやということだったんですけど、実際どれぐらいかかるかっていう、ちゃんと見積もりをきちっととってるのかというのと、その工事をする際に入札のような、きちっと安く抑えられるような、そういう方式で工事をするのかどうか。

次に、同じページの3番の産地水産業強化支援事業の5億円の製氷機のことについて質問をいたしたいんですけども、私は水産のことはちょっと不勉強だったんで、最近地元の従事している方に伺ったところ、現在非常にマグロが豊漁というんですか、もう今製氷、現在のこの老朽化してる製氷装置がフル稼働してもいっぱいいっぱい、現在の日産50トンで、製氷が50トンで貯氷能力が200トンと。確かに古いというのがありますけども、それでもフル稼働していっぱいいっぱい。今回この予算でつくろうとしているのは日産30トンで、それで貯氷が90トンぐらいですか。そうすると、これはもうパンクするっていう指摘が出てるんですよ。

だから、魚屋には、今までやったら資源量が減ってきて漁獲量が減っていくというような前提だったんですけど、何年間に一回はこういう豊漁なときがあって、こういうときこそもうけるチャンスなんで、そういうときに間に合わないような製氷庫だとどうなんだと、そういう心

配の声が上がってるんで、もう一回、これは練り直したほうがいいんじゃないかっていうふうに思いますので、その辺の見解を説明いただきたいと思います。

それともう一点、最後は117ページの観光協会へ4,800万円、これは例年大体これぐらいの額が補助行ってるんですけど、これはちょっと要望として言っておきたいんですけど、観光協会に入ってる方から理事というんですかね、役員さんから理事会が余り開かれなれないということを知りました。昨年のように観光が危機的なときは、やはり理事が集まってどういう対策をしたらいいかというのを、やっぱりきちんと考える、そういう機会を設けることが大事だと思うんですけど、そういう機会が非常に少なかった、なかったっていうことで非常に憤っている理事さんもいらしたんで、ただ理事会を開くと、きつい意見だとか厳しい意見が出てくるんで、そういうのを会長さん、トップの方は、そうかどうかはわからないんですけども、そういうのも働いたんじゃないかというふうにその方はおっしゃってたけど、やっぱりそういう厳しい意見、いろんな意見が出てこそいろんな知恵も出てくるということなんで、こういうときにはきちっと会を頻繁に持つと、そういうことを要望していただきたいと思います。

以上、お願いします。

○議長（森本隆夫君） 観光産業課長瀧本君。

○観光産業課長（瀧本雄之君） 議員お尋ねの件でございます。

まず、食味測定、人工衛星からの航空写真であります。

これはもう3年間実施させていただいております。初年度につきましては非常に青からグリーンの色が出て、非常にいい成績でありましたが、一昨年、議員御指摘のとおり赤い成績でありました。またこの23年におきましても非常に赤い地域が多うございました。その中で部分的にブルー、グリーンに近いような地域がございまして、そこを写真を解析受けた後、現状を見てみますと、写真を撮ったのが7月の末あたり、梅雨が明けて晴れた日を写すわけなんですけど、その解析を聞いた後、行きますと、もう8月、お盆前になるんですけど、生育が遅い田んぼが衛星写真によるといい成績が出ている。それと密集度というんでしょうか、植えた数の少ない本数のほうが割といい成績が出ているということで、衛星写真用にもし考えるのであれば、収益率といいますか、収穫は少なくなるんですけど、まばらなというか、10本単位で植えるんじゃなくて3本、4本単位で植えたら衛星写真の結果が出てくるということも考えられますので、ことしもう一回、太田、下里地区を写させていただいて、成績のいいところ、悪いところをもし判別できるようであれば、それで一つの答えを導き出して、今後の、もし衛星写真の数値を使ってブランド化を進めるのであれば、そういう時期をおくらせてつくったり、田植えのときに苗の数を減らして植えていったら、そういういい成績が出るんでないかという、今予想のもとで24年度をやろうとしております。それについては、また答えが出てから御報告したいと思います。

そして、水産振興会の水供給施設の件でございます。

これにつきましても、予算のときに御説明させていただきましたように、観光栈橋からずっと向こう、渡の島までがマグロ船、またボートとかヨットの給水施設を備えておりますが、そ

こがもう数年、四、五年前から漏水の兆しがございました。それで漏水調査を幾度か水道課と、また業者と、そして思い当たるところを止水栓を設けてそこでとめて、ここから先の漏れ云々するんですが、場所が特定できずにずるずる来ております。そういう関係もあります。そしてまた、その漏水の量がかなりひどくなってまいりましたので、今回この工事をお願いする次第であります。

そして、勝浦港というのは県の管理漁港でありますので、県のほうに県の漁港、勝浦漁港として給水施設が必要だから、ぜひとも考えていただきたいということで再三、ここ2年ほどお願いしておったんですが、やはり工事したのが水産振興会で所有が水産振興会のものであるから水産振興会でやるべしという方向になっております。

そしてまた、その中で旧施設のパイプを撤去してから工事しなさいという条件もつけられております。新たに布設であればこれより安くできる金額を予定できたんでありますが、古いパイプも撤去して、場所を変えるか、同じ場所に埋設するかはまだ決めておりませんが、できることなら、あそこは本管も新しい、海岸沿いの道に通ってございませんで、勝浦の中ノ町のほうに本管、水道の本管が通ってございませんで、そっちから引っ張ってくるということもございまして、この工事費を上げさせていただいております。

今後観光も含めて勝浦漁港、渡の島の活用を含めて給水、渡の島も必要な部分があるかと思っておりますので、そういうことで漁船用の給水施設であります、きっちり漏れないように、また埋立地でありますから漏水がひどくなるとどういふ事態が起こるかもわかりませんで、ことしこの工事を実施させていただきたいということであります。

そして、製氷機であります。

議員おっしゃられましたとおり、今多いときで170トンとか、マグロが揚がっております。近年にない豊漁であります。それで仲買のほうも送りだけでは、もう耐え切れずに一時貯蔵するような状況になっております。それで冷蔵庫、冷凍庫のほうも間に合わないというふうな状態で、当然氷のほうも非常に足りにくくなっております。

この今の状況でこの計画はしてございませんで、過去5年間の中の製量、一番多いときで賄える量ということで日産30トン、貯氷90トンという形を計画させていただいております。この量が毎年1月、2月、3月、続くのであれば、計画の見直しは当然必要かと思っておりますが、ことは異常なのか、これからこういう状況が毎年続くのであろうか、ちょっとそこんところを見きわめできませんので、現在この日産30トン、貯氷90トンで進めさせていただきたいと思っております。

それから4点目、観光協会でございます。

昨年3・11の東日本の大震災以降、観光客の落ち込み、夏場にやや、ややというよりも前年比を若干上回る回復を見せておったとこ、私どもの町の9・4の大災害等がございまして、もうそこからの激減は申すに及びませんで、観光協会もその間、理事会、開いてなかったようであります。

例年ですと、大体年3回ぐらいの理事会は開いておったように思いますが、23年度において

は2回ぐらいしかなかったということで、理事会を開けということは、そういう町が観光の状態で非常事態でありましたので、そういうときには特に理事会を開いているいろいろな意見を出して、していくのがベターだと思いますので、その点につきましては観光協会にみんなの意見を集約してこの困難を乗り切るように知恵を出し合おうではないかということで申し入れはしておきます。

○議長（森本隆夫君） 5番曾根君。

○5番（曾根和仁君） お米の件につきましては、課長言ったようになるべく成果を生かせるように反省、まあ肥料の量とかもひよっとしたら関係あるかもしれないけど、その辺詳しい方に検討いただいて、ぜひ改善をしていただきたいと思います。

それで、水産振興会の件については、なるべく金額を安く押さえられるような、そういう方法でっていうのもちょっとお願いしたんですけど、それについての説明がなかったのと、あと、さっきよう言わなんだんですけど、あそこの漁船への給水する方が、あれは水産振興会が雇ってるんですかね、漁船にホースの片づけですとか、その件で結構苦情がありまして、直接船主の方から聞いたんですけど、片づけ方が悪いときつい言葉でほうり飛ばされると、しっかりやっつけていう形で言われると。船主の方からは、せっかく入港して荷をおろして、おたくの漁協のために荷をおろしたのにそんな言い方はないんじゃないかと、もっと優しい言葉で言えという声をかなり聞きます。非常に乱暴な言葉でね、片づけるのは彼らの仕事だと思うんで、そのために雇われていると思うんですけど、それが非常に船主に対して非常にきつい言葉で言われるっていうのを聞きましたんで、その辺も事実確認もした上で、もし本当にそういうのがあれば、もっと優しい言葉で言う。やっぱり観光の町ですので、それも指導していただきたいと思います。

それと、やっぱり製氷機についてはこれね、やっぱりなんとか見直しをしないと、これから産地として生き残っていくためには、もう下降していくというような見通しでつくってしまった本当にええのかなあと思うんですね。

私ね、現場のそういう漁会ですとか魚商の現場の方からもちょっと聞いたんですけど、やっぱりいっぱいっぱいの施設だと、中へ入ってリフトなんか回す、そんな空間も要ってくるし、やっぱり設備的には余裕がないと非常に作業もしにくいと。どうもその現場の人らは本当にどういう規模の設備ができるかというのをいつも相談も何も聞いてないっていうんですね。だから現場の声ももっと聞いて、こういう設備をしないと、ちょっと勘ぐったら悪いんですけど、余り大きな設備で大きな金額やと町がつくってくれないから抑えてるんじゃないかっていうような心配もあるんですけど、本当に産地として生き残ろうとするんやったら、多少金額はかさんでも、余裕のある施設をしないと、結構尾鷲だとかほかの産地なんか今マグロの優先をやり出したと聞いてます。ライバルができてきているというのもありますし、やはり何とか見直しをしていただきたいと思います。

○議長（森本隆夫君） 観光産業課長瀧本君。

○観光産業課長（瀧本雄之君） お答えいたします。

その水産振興会の水供給施設でございますが、これは当然水産振興会であろうとも入札等で行いますので、正規の役場のルールと同じように行ってまいりますので大丈夫でございます。一番安い方法で行わせたいと思っております。

そして、水供給の管理人ですね、これは役場で、水産振興会で雇用しているわけではなく、勝浦の漁業協同組合に雇用していただいております。そのおっしゃられることの語調の荒さ、私もよく役所の人間の割には語調が荒いと言われるところがあるんですが、彼にもそういうことがあるのであれば、また事実確認をしながらいきたいと思います。

ただし、現場の船主さん、お聞きになった船主さんは優しい方だと思うんですが、使用される乗組員が非常に人のもんだから乱雑に扱う部分もありますので、そういうこともあってそういう言葉になってしまうところもあるんかと思えます。ただ、それでも私どもはお客様に対してということを再度、その管理人に言って、そういう場合でもやはり言葉は丁寧にとということしております。

そして、その1点ありました片づけるのは、やはり使う人間の、準備するのも片づけるのも使用する人間の作業というふうに認識しております。そういうことで管理人にはその旨、再度伝えるように漁協のほうには申し伝えます。

そして、製氷機に絡んでであります。確かに今の状況は本当に勝浦、うれしい悲鳴の状況であります。決して下向きの減少傾向のままでしていくのではなく、5年間、5年前の実績と見て30トンを決めております。そういうことで、これからどんどん下がっていくであろうという予想ではございません。

そしてまた、御質問の中には、この製氷以外の凍結部分のお話もあったと思えますが、凍結部分につきましても、現場の責任者を呼んで状況を聞きながら、お互いにどうすべきか、ちょっと時間をいただきますと、勝浦の漁協の冷蔵庫のほうはリフトで入りますが、魚商のほうの冷蔵庫は人間がリフトを使わずに生身で入っております。そういう違いもありますので、そういうことを理解し合いながら、今話し合いを続けておりますので、現場の声は現場の責任者が出て、その要求等は聞きながら、そして過大設計にすると管理費、それで採算がとれなくなれば大変なことになりますので、採算がとれるぎりぎりの大きさを検討して、今いっております。この現在の水揚げが続くのであれば、当然冷凍庫も今計画しておるのじゃ足らなくなりますが、マックスに合やすのか、平均値に合やすのか、採算も考えながら今後考えていきたいと思えます。よろしくお願ひします。

○議長（森本隆夫君） ほかにありませんか。

11番中岩君。

○11番（中岩和子君） それではお尋ねをいたします。

農林水産業費の中の106ページに旅館米補助金91万5,000円があるんです。それと、営農再開緊急支援事業補助金446万6,000円というのがあります。これちょっと説明、私聞き逃したのかもしれませんが、こここのところの説明をもう一度というか、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それと、115ページの空き店舗活用事業補助金460万円というのがあるんです。これは以前の事業で、ずっと継続してやってるんですけど、その成果とか、またこれずっと続けてきている検証はどのようになっているのか、お尋ねをしたいと思います。

それともう一つ、117ページのやる気観光地魅力アップ協働事業補助金450万円というのがあります。これについてもちょっと説明のほどをよろしくお願いします。

○議長（森本隆夫君） 観光産業課長瀧本君。

○観光産業課長（瀧本雄之君） それではお答えいたします。

まず最初、旅館米補助の関係であります。

これにつきましては昨年より実施させていただいております。これは昨今、農地の耕作放棄地等がふえてまいりました。そういう解消を目的といたしまして、過去5年間に耕作放棄地を解消していただいた個人もしくは団体に、その方たちがつくった米の売り先といたしましうか、そういう販路の新しい拡大の意味もござります。私ども農業のほうは耕作放棄地の減少を目指しておるわけなんです、そういうことでこの地方、私どもの那智勝浦町の地方、この気候、気象条件を生かしたら米ということで、お盆過ぎにはもう既に太田のほうでは新米が食べられると、こういうことを観光に生かそうということで旅館米ということをおもいついたわけがあります。

ただ、旅館のほうが入湯税10%を活用した補助金を使いまして、その米を買っていただいて使っていただくと、そういう協力体制がとれたこともありまして、耕作放棄地を少しでも減らして、そこから上がった米の販路を確保したいということで、この旅館米補助ということで、補助の内容といたしましては、本人、耕作者の希望価格と農協への供出したときの農協の金額、その差を埋めていくというものであります。大体的には6トンを予定しております。米自体はもう農協で一たん供出いたしますので、その米を旅館のほうに回していただくというふうには、それはもうJAにもお願いして、太田を含めた那智勝浦町の米、参加していただいた米を観光客の皆さんに土産商品として召し上がっていただく。そのために農家に対する補助でござります。

営農再開につきましては、これは昨年の台風12号災害以降、県のほうから被災を受けた地域において、その農業の再開に対する補助が出てまいりました。これにつきましては、いろいろ制約がある中で、パイプハウス等の補助が受けられるということで、イチゴ生産組合5棟の生産組合としてパイプハウスを再建する補助金であります。

次、空き店舗であります、これも昨年から実施させていただいております。築地地域の空き店舗対策といたしまして、町内にお住まいの方で地産、町内の食材を使って店を出していただける方に補助をするというものでありまして、補助といたしましては工事、内装費ですね、内装費の限度額の200万円までは町が負担しますよ、それから個人とその家主さんと結んだ賃貸契約、家賃ですね、これにつきましては3カ月間100%、町が持ちます。次の3カ月は2分の1、町が負担します、あなたも2分の1負担しなさいよ、そこから先は自分で経営努力でやってくださいということで、そういう補助を予定しております。

実績といたしまして、昨年申し込みが1件ございました。なかなかいい場所、本人さんの言ういい場所が二転三転しまして、やっと年明けにオープンしております。築地地区で、あれは何通りというんでしょうか、昔の店名で言いますと、旧八雲鮨の店があいたということで、そこにうどん屋さんを構えて、今営業なさっております。本年もまた募集させていただいて、そういう地元の食材を使うようないろんな店、また若者の夢の持てるような補助制度として活用してまいりたいと思っております。

そして、やる気魅力アップ事業、これは観光のほうの事業であります、これは県のほうの補助金、同じくやる気魅力アップ事業の補助金というのがございます。それを同額受け入れします。それは役場ではなく、那智勝浦町役場観光の職員と観光協会、それから旅館組合、商工会、水産振興会、これは勝浦漁協になりますが、合わせてそこで年間の観光に対するいろんなイベント等を検討して、そこでやっております。

事業内容といたしましては、1つの柱是那智山を含めた世界遺産グループのウオークとか、勝浦の港町の雰囲気を出すマグロを活用した体験イベントを含め、またマグロ解体も含めた、そういう観光イベント等をこの中で計画させていただいております。

以上でございます。

○議長（森本隆夫君） 11番中岩君。

○11番（中岩和子君） 今るる御説明受けて、わかったとこなんですけど、この旅館米のことで、これは今太田のほうがお米がとれるのが早いということでもございましたけど、これはどこへ申し込めばよろしいんですか。お米つくってらっしゃる方がこれに参加しようと思えばどこへ申し込んでどのような手続をすればよろしいんでしょうか。

○議長（森本隆夫君） 観光産業課長瀧本君。

○観光産業課長（瀧本雄之君） これは役場の観光産業課のほうにお申し込みいただきます。耕作放棄地解消、まず農業のほうの目的としてはございますので、そういうのを申し込んでいただいた方にそういう実績があるかどうか、またことしそこへ作付するかどうか確認できますので、その方々、観光産業課で受け付けしております。

昨年も回覧で回させていただきましたが、なかなか皆さん手を挙げていただけませんでしたので、またことしも回覧で回させていただきたいと思っております。

○議長（森本隆夫君） ほかにありませんか。

8番東君。

○8番（東 信介君） 2点ほどお聞きします。

1点目は、先ほどから貯氷施設ですか、製氷施設ですか、朝の歳入の質疑の中でもちょっとお聞きしたんですけど、市町村振興資金貸付金ですか、交付税負担をされないという話なんです、それが3億円ですか。

これ結局は15年で返済やということなんですけど、この採算性というのは今の装置というんですか、機械というんですか、それは採算性はどういうふうになってるんか。結局15年で返さなあかんということは、3億円とした大体月160万円ぐらいの返済をしていかなあかんのと、

単純に計算して元金と利息関係なしで計算したらこのぐらいになってくると思うんですけど、これとこの辺の採算性はどうなってるんかと、もう一点は、前後しますけど、101ページの需用費の中の修繕費ですか、これ再燃バーナーの点検などかお聞きしたんですけど、これ定期的なものではないんですかね、これ。定期的なものやったらこの委託費に入るんか、その辺、次ページの工事費に入るんか、金額が金額なんで、修繕費でこのぐらい上がってくるものなんか、工事費で上げるものなんか、運転管理委託したあるんで、その辺の関係をちょっと教えていただけますか、お願いします。

○議長（森本隆夫君） 観光産業課長瀧本君。

○観光産業課長（瀧本雄之君） 製氷機の採算性ということでございます。

これにつきましては、現在の勝浦の漁業協同組合、また魚商組合の販売トン数ですね、現在年間で5,673トンほど現実にはしております。それを現在トン1万1,000円でしておるんですが、将来的には安くしたいんですが、もうかれば。それで6,240万円の売り上げ、そしてまたこの今回の計画しております製氷についてはオール無人ということで人件費がかからないと、点検に係る人間がございまして、人件費を0.5として諸費を引きますと1万1,000円で氷販売した場合、年間4,950万円の採算がとれる見込みになっております。

単純に氷だけの施設の収益ということではそうなるんですが、保管庫、冷蔵庫ですね、冷凍庫のほうとの収益との兼ね合わせで、これはもう今の数字は氷の販売の予定の収支見込みであります。保管庫を含めると、また全然違う数字になってまいります。

○議長（森本隆夫君） 住民課長寺本君。

○住民課長（寺本資久君） 101ページの修繕の関係ですけど、1,780万円お願いしてます。

昨日説明の中で1、2号炉起動再燃バーナー点検を初めとした6件というふうに、それに加えて緊急修繕というふうに申し上げさせていただきました。

この工事と修繕の本来の分類というのは、特別規定したものはないんですが、今回6件につきましては施設内の、ちょっと金額はまあ幾らからというあれはないんですけど、結構軽微なというような施設内では判断してやっています。

定期補修工事は運転管理の中で包括契約とさせていただいております関係は、これも委託のところ少し申し上げましたように、5件の定期補修工事は昨年と同様に定期的なものとして包括契約させてもらっておる分でございます。ですから、この修繕6件プラス緊急修繕というのは特別、この定期補修工事で包括契約の中に入れるものでございませぬので、別個として扱っております。

○議長（森本隆夫君） 8番東君。

○8番（東 信介君） その製氷施設なんですけど、近隣の漁協の製氷はコインでいけるような形が多いと思うんですけど、今度新たにつくるんでしたらそういう漁業関係者だけじゃなしに一般の人も買えるような、そんなコインで買えるような形にしていきたいと思うんですけど、その辺はいかがでしょう。

○議長（森本隆夫君） 観光産業課長瀧本君。

○観光産業課長（瀧本雄之君） もちろんこれも最新の機械を導入を考えております。そのコイン式で計画をさせていただいております。

○議長（森本隆夫君） 6番湊谷君。

○6番（湊谷幸三君） 私も112ページのこの産地水産業強化支援事業費についてお伺いしたいと思います。

この冷凍冷蔵庫、この製氷機も含めてでしょうが、一昨年（平成27年）の第4回の定例会において漁協の特別委員会へ付託されたものでありまして、漁業協同組合とその魚商組合が連名で要望書を出してきたということでございますね。そこで、橋本謙二委員長が昨年の3月定例会におきまして審査の結果を報告して、採択すべきものとして報告してありますが、その意見を付してということで、附帯意見がありますんで、ひとつこれを朗読いたしたいと思っております。「町内他産業との公平性、整合性の確保及び将来にわたる施設の有効活用を図るため、第三セクター等も含めた町の政策的意思の反映が可能な経営体を検討されたい」という附帯意見がついてまして、このことについても過疎債が適用されるという前提のもとで審査を進めていったと思うんですね、その特別委員会は。そういうふうなことも書かれてありますね、起債の70%が交付税措置されるんだと、この年度。

だけど、これは交付税措置もないと、一切の交付税措置がないということでもありますんで、その中で魚商組合も応分の負担をしますという回答もいただいております。しかしながら、ここで財源の内訳を見ますと、ないんですね、応分の負担の額が。どこでもって応分の負担をしていただくんかというのは、他産業であれば、町が施設を建ててやるというようなことはありませんので、重要な産業でありますんで、企業誘致と同じような位置づけでもって今の産業を守っていくと、町の主要産業を守っていくということも大事であるということは理解できますけども、応分の負担をすと言ってるんですから、その応分の負担をどう求めていくんか、その点をお聞きしたいと思います。

○議長（森本隆夫君） 観光産業課長瀧本君。

○観光産業課長（瀧本雄之君） ただいまの御質問でございます。

議員質問の中でおっしゃっておられましたとおり、那智勝浦町における勝浦漁協と申しまししょうか、勝浦のマグロ市場の存在は非常に大きなウエートを占めております。勝浦の経済のかなりの部分を占めておりますが、そこが冷凍庫を含めた施設、勝浦漁協所有の施設、また魚商の施設、非常に老朽化、両方ともしてあります。30年以上たっております。それでお互いにいつ故障をしてもおかしくない状況であります。片っ方が故障したときに片っ方でその代替施設として機能できるかということを考えますと、非常に苦しい。無理をかけるとそっち側もパンクするというような話し合いのことがこの製氷を含めた冷凍までの出発になろうかと思っております。

その中で協議してまいりましたが、冷凍庫自体が昭和50年、四十数年に建てたものでございます。そのころは勝浦の市場にも冷凍のマグロもどんどん揚がっておりまして、それは若干大き目であったと思っておりますが、それぐらい活用できる倉庫でありました。

ただ、今は勝浦の魚市場といたしまして、生マグロの基地として生マグロの取り扱いをしております。それで保管に冷凍庫が要る。それでも先ほど議員からありましたように、今最盛期、このような特別な最盛期のときは冷凍自体が間に合わない、急速冷凍をかけてするにしてもかなりの数が毎日残って、翌日マグロが山積みされているような状態もございます。そういうことも踏まえて検討してまいりました。

そして、当初検討の話の中でも過疎債を適用できるということで進んでおりました。しかし、建物の建てる場所とか検討しておるうちに冷凍庫と、今回予算に上げてさせていただいております製氷、こちらの部分を施設として分けざるを得なくなりまして、そうして県のほうに再度過疎債のお願いに行きましたところ、県のほうの御意見といたしましては、製氷貯氷施設については該当できないと、しにくいという御返事でございます。過疎債の適用には適さないということで、それでやむなく今回、冒頭ありました補助金を活用していくというふうになっております。

そんな中で来ております関係で、当初の委員会とお話し合いさせていただいた部分と、その過疎債の適用部分が若干違ってきておりますことは事実であります。まことに申しわけなく思っております。

そういう面を踏まえても、私どもの町の基幹産業であるマグロの魚市場、そのためにはぜひ氷、またえさの供給、また魚を買った後、送れない魚の凍結、それは市場として絶対必要な機能でございますので、ぜひとも皆様の御理解を得まして、この製氷また冷凍の御理解を賜りたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

前段が長くなりまして肝心なことを忘れておりました。申しわけございません。

応分の負担というのが委員会報告の中でいただいておりますが、私どもと話し合いの中では、今回予算には計上させておりませんが、トータル的に見て、冷凍庫建設に当たっては、その段でトータル的に製氷も冷凍も含めた応分の負担ということで数字は上げてまいりたいと思っております。どうぞ御理解よろしく願います。

○議長（森本隆夫君） 6番湊谷君。

○6番（湊谷幸三君） 課長、当議会は、私が当選したころ湯浅町政だったと思うんです。町長もそのとき議員だったと思いますけどね。勝浦漁港の債務保証をしましたね、10億円の、県が7億円、本町が3億円と。そこでもけしからんと、なぜ一漁業組合にですよ、水協法に基づいた、法律に基づいた組合であったとしても、そういう団体にそういうことをするんだということで、町民の皆さんも議論しましたね。そしてこの議会でも議論があったと。

今回はですね、そら債務保証であれだけの議論があったんですよ。今回はもう5億円、まあ1億6,000万円ぐらいの補助金があるんですかね、3億4,000万円ぐらいの持ち出しをすると。債務保証の3億円でもあれだけの議論があったと、これは持ち出すんですから、そのまま。それで最後は使用料で何かペイできるような話をしていますけど、なかなかそんなことにはならんと思うんですわ。

宇久井の漁会もここ10年ほど前に製氷施設、貯氷施設をつくりましたね、漁会が自分と。あ

れ幾らかかったんなというたら1億円ぐらいかかったと、持ち出しがあったと、漁会のという話ですわ。だけど、そんなにもうかったように言ってませんよ、もうかるように。なかなか難しい。

だから使用料でもって、氷の販売でもって、事業でもってもうけとくんやと、これはもちろんそれは利益を上げていくのが大事でしょうけど、やっぱりそれ以外に応分の負担もお願いせんと、何もかも、あと10億円かかるんでしょう。そら産業も大事ですけど、那智勝浦町がつぶれたら何もなくなりますよ。そこらもありますんで、やはり町民の皆さんに納得できる、もちろん産業の育成、保護というのも大事ですけど、そこらはきちっとバランスのとれたようなことをしてもらわんと役場自体が信用されませんよ。何か癒着があるんやないかと、そんなように思われますんで、そういうことのないようにひとつお願いしたいと、応分の負担をお願いすると、約束なんですから。

○議長（森本隆夫君） 観光産業課長瀧本君。

○観光産業課長（瀧本雄之君） 応分の負担につきましては、全体の事業計画、大体金額が出たあたりで求めていきたいと思えます。もちろん癒着等はございませんので、その部分は御安心いただきたいと思います。

○議長（森本隆夫君） 休憩します。再開13時30分。

~~~~~ ○ ~~~~~

11時57分 休憩

13時29分 再開

~~~~~ ○ ~~~~~

○議長（森本隆夫君） 再開します。

3番下崎君。

○3番（下崎弘通君） 1点だけお聞きします。

112ページなんですけども、先ほどからの製氷冷蔵施設の関係なんですけども、その財源内訳の中で国県支出金で国が1億6,793万3,000円の補助があるということなんですけども、県のほうの補助は、この製氷冷蔵庫を検討する中で県のほうの補助はないのかというようなことで努力をされたのかどうか、確認させていただきたいと思えます。

○議長（森本隆夫君） 観光産業課長瀧本君。

○観光産業課長（瀧本雄之君） 製氷についての御質問でございます。

これ、国のほうの補助はいただくようにしております。県のほうの補助がないのかということですが、県の方針と、まあ国の方針から始まったんでありますが、昨年からの国の事業に対して地方のあれを求めないという、国が変わっております。そして県もそれを受けて県営事業について、純粋な県営事業について地方の負担を求めないということで、こちらの事業について県は負担しないという方向で来ております。

原則そういう方向であります。当初、冷蔵庫と貯氷と一緒に施設を考えているときに、県のほうにも何とか負担をお願いしたいということでずっとお願いしておりましたが、県のそう

いう新たな方針で、できる範囲はやらせていただくが、外に言えるような、例えば10分の1、県が補助するというようなことはできないということであります。

今後そういう、うちだけではなく、県内の町村いろいろありますので、そこにも影響が及ばないような形でうちのほうも県のほうの何がしの支援を要請して、求めていきたいと、そのように思っております。

○議長（森本隆夫君） 3番下崎君。

○3番（下崎弘通君） 確かにそういう方針で県は負担はしないということなんですけども、このマグロ漁業ということで県内の一つの大きな産業ですよ。それで県の、まあいうたら所得税から県税から町民税から、この漁業に、マグロ漁業に従事する人はそれだけの税金を納めているわけなんです。それがこういう存続していくためにも必要な施設だということなんで、できましたら県のほうも助成をしてあげていただきたいなと思うんですけども、ただ、今後そういう補助金という目に見える形がしにくいんですしたら、特別交付税なりそういうような中で応分の補助といいますか、負担をお願いしていただきたいと思います。

以上です。

○議長（森本隆夫君） 観光産業課長瀧本君。

○観光産業課長（瀧本雄之君） 議員おっしゃられるとおり、県に何がしかの、形はどうなるかわかりませんが、我々の地域のこの経済を支えるためにもいろんな形で支援をいただけるよう、私どもも努力して頑張りたいと思います。

○議長（森本隆夫君） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森本隆夫君） 質疑なしと認め、款4衛生費94ページから款6商工費121ページまでと、1ページから15ページまでの衛生費から商工費までの部分の質疑を一時中止します。

次に、款7土木費122ページから款13予備費167ページ、給与費明細書168ページから174ページまで及び175ページまでと、1ページから15ページまでの土木費から予備費までの部分を含めて質疑を行います。

5番曾根君。

○5番（曾根和仁君） 1点、質問いたします。

163ページの款10の災害復旧費の節15工事請負費の橋梁災害復旧工事4件ですけども、今回橋梁が災害を受けた主な原因は流木が橋脚ですとか欄干の部分にひっかかり、それがダム状になって、結果、橋ごと決壊したという部分が多かったんじゃないかと思うんですけど、この復旧に当たり、そういう今後同じような被害を受けにくいような、まあ原状復旧っていうのが基本らしいですけど、若干橋脚、真ん中の部分をなくすとか、そういう仕様の変更のような復旧はできるのかどうか、質問いたします。

○議長（森本隆夫君） 建設課長塩地君。

○建設課長（塩地勇夫君） 橋梁の災害についてですけど、今おっしゃられたように災害復旧というのは原状復旧ということでなってます。ただ、橋脚については色川の口色川なんかは、もう

橋脚なしでいこうかというのが、設計を今考えております。

あと、今言う流木の話があるんですけど、今回うちのやられたのでは護岸取り合わせの橋台等がやられたというのがあります。長谷なんかは流木というんか、もう飛んでてわからないから、原因がもろ流木が当たったんかどうかというのがありますけど、ただ、今言うような感じで、できる限り一径間というか、橋脚なしでやりたいという気は持っております。

○議長（森本隆夫君） ほかに質疑ありませんか。

3番下崎君。

○3番（下崎弘通君） 2点ほどお聞きさせていただきます。

144ページの教育の関係なんですけども、学校管理費の中で、これは需用費の中の消耗品費の説明の中で中学校の教科書が改訂されるので、今度その指導書とか教科書の購入費用が認められたということなんですけども、今年度からその教科で体育の中で実技指導、武道とかダンスが取り入れられたと聞いているんですけども、本町の中学校4校あるんですけども、その状況を教えていただきたいと思います。

そしてあと一点なんですけども、175ページなんですけども、地方債の前々年度末における現在高並びに前年度末及び当該年度末における現在高の見込みに関する調書という、その中で、前々年度現在高、22年度ですけども64億7,153万4,000円、それが前年度末現在高見込み額、平成23年度で75億2,403万です、これが計算してみますとふえて、増加が10億5,249万6,000円ふえているわけなんです。23年度災害復旧もありましたんで、これはふえるのは確かなんですけども、10億円ばかりふえております。そして、平成24年度の一番右なんですけども87億4,962万6,000円、ここで12億2,559万6,000円ふえていると、これは23年度、24年度合わせますと22億7,809万2,000円、これだけの大幅な償還元金が残ってくるということなんですけども、これについて町のほうはどのように考えてられるか、教えていただきたいと思います。

○議長（森本隆夫君） 教育次長小玉君。

○教育次長（小玉常夫君） お答えします。

指導要領の改正で平成24年度から中学校では男女とも武道とダンスが必修教科となっております。文部科学省では武道につきましては柔道と剣道、そして相撲の3種目、3種類を推奨しておりますが、本町ではどうしても学校施設の状況、それと安全面等配慮いたしまして、4つの中学校とも剣道を選択しております。

以上です。

○議長（森本隆夫君） 総務課長潮崎君。

○参事（総務課長）（潮崎有功君） 地方債の関係でございます。

議員御指摘ありました23年度6億9,400万円、この地方債の関係でございますが、本町の場合、その交付税措置の率のよい起債というのを優先してございます。この起債に関しましては28年度あたりがピークとなっております。28年度から10億円を超える予定になってございまして、30年度から33年度がピークということでございます。

先ほど申し上げました交付税措置率のいいものということで優先してございますので、今後

の大きな事業に取りかかる場合、財政状況を確認しながら進めていかなければならないと考えてございます。

○議長（森本隆夫君） 3番下崎君。

○3番（下崎弘通君） 体育の関係なんですけども、4中学校ともに剣道を取り入れたということなんですけども、その剣道、御承知のように武道の関係は剣道も含めてですけども、なかなか現場の教員の中で指導できる者は少ないわけなんですけども、その指導者の確保とか、また教員に対する実務研修等、養成について教育委員会、学校でどのように今現在対応しているのか、今後24年度に向けて対応していくのか、教えていただきたいと思います。

○議長（森本隆夫君） 3番下崎君。

○3番（下崎弘通君） もう一つ、こっち聞くの忘れました。濟いません、ちょっと答え待っていただきたいと思います。

175ページの関係なんですけども、この24年度の元金償還見込み額は5億2,790万4,000円ということで、これの支払いはこれまでの起債、借りた分に対しての元金返済、返還なんですけども、これについて償還利子もこれとは別についてくると、この24年度の予算では164ページですか、見たら1億1,348万9,000円もの償還利子がついているということなんですけども、これは今までに借りた分なんです。これが23年度、24年度と、この22億円もの借入れがふえてきたということは、あと、据置期間を含めて、1年なり3年なりの据置期間があるんですけども、その間は償還利子を払わんなんですけども、それが過ぎたら元利合計で払っていくんです、そういうことになると大変な償還額が出てくると思うんです。

ですから、今総務課長も言いましたように、交付税措置の高い、そういう起債をよりながら、できるだけ町の負担が少なくて済むような運営方法といたしますか、財政運営を心がけていただきたいと願っております。

ですから、財政調整基金も少なくなってきた中で、この公債費の償還がふえてまいりますと町の財政が硬直しますんで、将来、3年なり5年なり10年なり先を見通した財政運営を考えていただきたいと、このように思います。町長、よろしく申し上げます。これお答え願います。

○議長（森本隆夫君） 教育次長小玉君。

○教育次長（小玉常夫君） 学校で指導するのが体育の先生になろうかと思えます。

御指摘のとおり、学校での剣道の指導経験のない先生や、規模の小さな学校ではどうしても教員配置の事情で極端な場合、体育の資格を持ってない先生が当たるようなことになる可能性もあります。

一応県のほうでは警察のOBとか指導経験のある教職員を活用した、いわゆる外部講師を活用するというようなことを考えておまして、実際に各学校4校とも県のほうへ特別非常勤講師の配置をお願いしている次第であります。

また、県におかれましても、24年度からの指導実施に当たりましては、実技研修とか講習を積極的に取り入れて指導していくというようなふうにも聞いております。

なお、年間の授業時数ですが、10時間程度と聞いております。だから指導内容につきましても基礎、基本的なもの、それと剣道のいわゆる精神的なもの、そのような指導の内容になるのではないかと考えております。

以上です。

○議長（森本隆夫君） 町長寺本君。

○町長（寺本眞一君） 起債残高の償還についてですけども、22年度のときに過疎指定を受けましたんで、その過疎債の利用の事業が大幅にふえたと思うんです。そういった中で今後その部分の起債残高がふえてきてたと思うんですけれども、今後とも収支のバランスを考えながら、起債のほうも考慮してまいりたいと考えます。

○議長（森本隆夫君） 3番下崎君。

○3番（下崎弘通君） 最近のテレビとかマスコミなどで武道の関係ですけども、ちょっと記事がよく出てるんですけども、剣道の場合は柔道と違いまして事故は少ないかと思うんです。それで、警察OBとかそういうような指導者の外部講師を考えているということで、ここにも副町長、有段者で県のほうで警察学校とか機動隊とかで大変指導された方もおられるんですけども、なかなか剣道についても指導の仕方が難しいと思うんで、保護者が心配するような事故のないようにだけ十分注意して、校長会なり各種研修会等でその指導を教育委員会のほうでもよろしくお願ひしたいと思ひます。

以上です。

○議長（森本隆夫君） 教育次長小玉君。

○教育次長（小玉常夫君） 御指摘のとおり、やはり指導を行う上で安全を配慮するという事は一番大事ではないかと考えております。やはり生徒が授業を受ける中で安全・安心して運動できる、そういう環境の場をつくる事が一番肝心かと考えております。

町教育委員会としましては、議員おっしゃられたように、校長会または担当者会等、あらゆる機会を通じまして安全を徹底的に指導していきたいと、そのように考えております。

以上でございます。

○議長（森本隆夫君） ほかにありませんか。

10番山縣君。

○10番（山縣弘明君） お伺ひいたします。

まず135ページ、災害史の関係です。賃金と需用費のところでは災害史の御説明があったかと思ひます。もう少し災害史の今検討されている内容についてお聞かせいただきたいと思ひます。

同じく135ページの工事請負費、河川監視カメラシステム整備工事、このカメラが設置された際の活用方法についてですね、例えばアラームをつけるよとか、本庁との連動はこうしてるよというようなところを御参考までにお聞かせいただきたいと思ひます。

続きまして147ページ、備品購入費の施設用備品、御説明でいす、机、テレビ、カーテンなどの御説明がございました。これらの購入先について地元優先を検討されているかどうか、そ

の点、確認をさせていただきます。

続きまして150ページ、工事請負費、電気陶芸窯設置工事についてですが、この電気陶芸窯を設置するに至った、予算に計上することに至った経緯と主な設置された際の活用方法についてお聞かせください。

続きまして158ページ、こちらも備品購入費です。国体推進室用備品40万円とございますが、これ聞き漏らしたかもしれません。検討されている具体的な内容をお聞かせください。

その下の節19の一番下、わがまちスポーツ補助金、これについても具体的な内容について、剣道連盟の補助とございましたが、もう一度内容についてを確認させていただきます。

以上です。

○議長（森本隆夫君） 総務課長潮崎君。

○参事（総務課長）（潮崎有功君） 災害史の関係でございます。

これは記録として必ず残したいということで、災害史作成の予算をお願いしているわけですが、初めてのことで、参考といたしまして佐用町の災害史をいただきまして、それを参考に臨時雇用の補助金をいただいて臨時職員1名を雇用して災害史の作成に24年度取り組みたいと考えてございます。

それと、河川の監視カメラシステムの関係でございます。

3カ所に設置をいたしますが、活用方法といたしますか、提案理由の説明といたしまして、これは消防本部と本庁において夜間でも監視できる、ライトつきの夜間でも監視できるものとなっておりますので、そのブザーが鳴るとかというようなことまでは、ちょっと考えてございません。河川の状況を把握できる、それをパソコン画面で確認できるというものでございます。特にサイレンとか、そういうものは考えてございません。

○議長（森本隆夫君） 教育次長小玉君。

○教育次長（小玉常夫君） 失礼しました。147ページのいす、カーテン等備品の購入についてでございます。

一応地元の業者を優先的にお願いしていきたいと考えております。

それと、電気窯の工事費200万円の件でございます。

電気窯のこの200万円の工事に至った経緯でございます。旧教育センターで2基の灯油のボイラー式の窯を整備しておりまして、それを利用して公民館教室を行ってまいりました。昨年8月6日でしたが、今の新しい教育センター、三川小学校へ移転する際に1つの窯はもう十数年来使っておりまして、かなり傷んでおって、もう移動に耐えられないような状況で廃棄いたしました。もう一基については使用できる状況で使用する予定でありましたが、9月4日の二河川のはんらんで浸水、つかりまして、ボイラーの施設がつかって使えなくなったということなので使える窯がなくなったということが、まず第1原因でございます。

それと作陶室、陶芸教室を行う部屋なんですけど、旧三川小学校の給食調理室を利用して行う予定でありました。ただ、ボイラー式の窯では排気熱が大体700度から900度出るということで、現在の給食調理室では対応できないと、耐火構造にしなければならないので、かなりそ

の工事費用も要るであろうと、その点、電気窯にすれば排気熱が90から95度なんで、今の給食調理室の施設そのものを使うことができるというふうなことでありまして、電気式の陶芸窯2基を整備するに至りました。

もし整備することになれば、当然公民館教室での陶芸教室、また小学校、中学校での陶芸の体験する教室等で利用していきたいと考えております。

国体備品の40万円でございます。

教育センターでとりあえず準備室といいますか、準備態勢を整えていくわけなんですけど、まだ事務所の中へ担当職員を入れてしていくのか、新たにまた別の部屋を設けてしていくのか、今のところ、まだ決定はしておらないんですが、臨時職員を雇用していただけるようなので、当然その方も含めてパソコンの購入等を考えております。

それと、わがまちスポーツ補助金40万円の件です。

この国体2017年、それに向けまして一昨年レスリングカーニバルといいますか、教室を県のレスリング協会にお願いして体文で開催いたしました。それに引き続きまして、昨年剣道のレスリングカーニバル、このわがまちスポーツでやる予定でございましたが、9月4日の台風の襲来によりまして、よう実施できなかった経緯がございます。それで本年改めて予算計上させていただいたような経過でございます。地域の子供たちとかそういうのを対象とした剣道教室や、それとレスリングカーニバル、そして模範試合といいますか、そのようなものを計画しております。

以上でございます。

○議長（森本隆夫君） 10番山縣君。

○10番（山縣弘明君） 災害史について確認をさせてください。

佐用町の災害史を参考にされたということでございます。非常にいいことだと思います。将来にわたって記録をとどめておくことで、将来、それを生かされる、そういう災害史であることに期待いたします。

先般新宮市の記録史だったかな、拝見しました。写真をたくさん使っておられて、すべてがカラーで貴重な参考資料になろうかと思えます。たしか地方紙にも災害直後、11月だったかな、さまざまな地質学者が来られて調査したところ、今回の土石流は今回以前の何十年か前の土石流も同時に発生しているというようなことが報告されていたように思います。その際の地質学者の皆さんの報告書は本庁のほうにも届いておるかと思えます。そういった学識的な観点からの記録もぜひその災害記録史にとどめておく必要があるのではないかなあとと思えます、その点、もし検討されているようでしたらお聞かせください。

那智中学校の備品購入の件についてはよくわかりました。町内の業者を優先していただけるということで安心いたしました。

それから、社会教育の中の陶芸窯ですね。以前の旧教育センターで使われていたものがあつたということで、今後公民館活動とあわせて、今次長の御説明にあつた、ぜひ小・中学生の体験としても活用ということによって、この窯が生かされるのではないかなあというふうに思い

ます。そこら辺、まだ具体的に検討されていないかもしれませんので、地元の各学校長とも意見交換をしていただければと思います。

それから、国体推進室の備品の関係であります、それとわがまちスポーツの関係も関連してありますが、当町がレスリングと剣道が開催されるということで、ともにこのような形で具体的に絞って取り組まれるということは非常にいいことだと思います。

一つ、先ほど次長の説明の中でレスリングカーニバルの話がありましたので、念のため確認なんです、このときにもこのわがまちスポーツの補助金というのは執行されていたのでしょうかという点をお聞かせいただきたいと思います。

また、国体推進室につきましては、これもこれからだと思いますが、当町には本庁の中でも副町長を初め教育委員会にも剣道の有段者がおられますし、本庁のほうにもレスリングの経験者がおられますので、その人材をフルに活用していくことで国体の大会のみならず、それまでのさまざまな全国からの団体の誘致促進にも観光産業課とも連携しながら取り組んでいただければというふうに思います。その点についてもお考えをお聞かせください。

○議長（森本隆夫君） 副町長植地君。

○副町長（植地篤延君） 私から災害史のほうについての御説明を申し上げます。

現在災害対応事後本部のほうで災害史の編さんについては第1番に上げてございます。

内容につきましては、佐用町から取り寄せました災害史を参考にしながら、本町独自のものにつくりかえたいと考えてございます。

まず1点は、災害の被災状況、こうしたものの点検、検証、これはまず水の来た部分ですね、例えば那智山から浜ノ宮、あるいは太田川水域、二河水域、こういったところの、いわゆる水で被害のあったところ、あるいは被災者も当然のことですけれども、特に家屋を中心にどの辺にまで水が至ったかということを図上にしっかりとどめておきたいと考えてございます。それと、その最高値に至る部分のところもすべてチェックをかけたいと考えてございます。

その後、やはりこの指揮本部の中での指揮のあり方、これについての検証も時系列にしっかりとめておきたいと考えてございます。その指揮の中でいろいろな矛盾点だとか、あるいは、いわゆる落ちもあろうかと思えます。そういうところの検証も含めてしっかりととらまえていきたいと考えてございます。

また、写真等につきましては記録は大変必要かと思えます。現在現場に赴きました各職員の持っておるデジタルの写真機とか、あるいは携帯に残っておるもの、いろいろなそういう写真、さらには報道機関、あるいは警察、自衛隊での撮影した写真等、入手可能な範囲において集めて保存する覚悟にしております。

また、職員に命じておりますのは、各報道機関の、特に新聞紙上に残された記録ですね、これもすべて切り取るように指示しておりますので、今かなり膨大な量になってございますが、その中から抽出しての記録も残したいと考えてございます。

そのほか、そうした技術的なものはすべて実名入りでしっかりこしらえたものが一つと、さ

らには広報用あるいは次の訓練、指導等に使うためのパンフレットの災害史的な記録のものもこしらえたいと考えています。

町長にはこの供用に使うパンフレットの資料については早く作成せよと命ぜられております。これについては一番先に仕上げ、そこから本来の災害史に入って行く予定にしております。

以上です。

○議長（森本隆夫君） 教育次長小玉君。

○教育次長（小玉常夫君） 議員おっしゃられましたように、電気窯の今後とも有効利用、活用を図っていくために校長会等を通じて、より活用を考えていきたいと思っております。

それと、レスリングでの補助金はあったのかということでございます。一昨年、初めてレスリングのカーニバル、レスリング大会を開いたわけなんです、そのときは県の補助がありまして、それへ町の40万円の補助をのせて県のレスリング協会へ補助して開催いたしております。

今後の対応なんです、2017年に向けて町民に周知するとともに、機運を高めるということで何らかの形でレスリング、剣道、これらの何らかの同じような形で大会をするなりなんなり、開催するなりやっていきたいと、計画していきたいと、そんなふうを考えております。

○議長（森本隆夫君） 10番山縣君。

○10番（山縣弘明君） ただいまの副町長の御説明で非常によくわかりました。

ペーパーとプラスデータでしっかりとその貴重な災害史が後世に生かされるようにとどめておいていただけることに期待いたしたいと思っております。

教育委員会の関係では、国体に向けての機運、これからが正念場だと思いますので、今後3年間の取り組み、ぜひ先ほど申しましたように、特に今観光産業課が卓球を中心にスポーツ活動の団体の誘致活動を積極的に具体化されております。教育委員会と連携しながらしっかりとその国体推進に向けた取り組みをしていただけることに期待いたします。

以上です。

○議長（森本隆夫君） ほかに質疑はありませんか。

8番東君。

○8番（東 信介君） 何点か、お伺いしたいんですが、ちょっと聞き漏らした点も何点かあると思いますので、教えていただきたいと思っております。

125ページの道路新設改良費ですか、節15の工事請負費400万円のやつで、交通安全施設整備工事、これはどういうものか、もう一度説明をお願いしたいのと、142ページ、教育費の中の小学校費ですか、節19負担金補助及交付金の中の日本スポーツ振興センター共済掛金というのは、これはどういうものか。

168ページですか、特別職の給与費明細書の中の比較の中で176人の特別職が減ったということなんですけど、これはどのような方々が少なくなったのかということと、ちょっと戻るんですけど、1点、気になったところがあるんですけど、145ページへちょっと戻るんですけど、上の

方で節13の中の通学輸送委託、説明の中でこれ中学校費の中での話やったんですけど、太田小学校へ通うとか説明が云々とあったんですけど、その辺、もう一度説明をお願いいたします。

○議長（森本隆夫君） 建設課長塩地君。

○建設課長（塩地勇夫君） 125ページの交通安全施設の工事なんですけど、これに関しては、この名前のおり交通安全の、例えばカーブミラー、ガードレール、白線等の工事を予定しております。

以上です。

○議長（森本隆夫君） 教育次長小玉君。

○教育次長（小玉常夫君） 日本スポーツ振興センター共済掛金40万9,000円でございます。これは児童が朝学校へ登校して、1日学校で過ごして、また帰宅する、その間での事故、事件等に対して、この日本スポーツ振興センターへ保険ですね、これの掛金でございます。

それと通学輸送委託、中学校費で太田小学校の件も出たんじゃないかということなんですけど、この通学輸送委託の経過といいますか、お話ししますと、太田中学校と下里中学校が統合した折に、その地域の方からの要望で太田地区の旧太田中学校区の生徒についてはスクールバスで運送してほしい、運行してほしいという強い要望が出されました。それで、スクールバスを購入して市屋から西中野川、小匠までの生徒を運行したわけなんですけど、その中で太田小学校の児童についても乗せてほしいというような、あわせた要望がありまして、それで旧太田川小学校区、現在の太田小学校の児童、その子供らもそのバスを利用して朝の登校、帰りの下校、それらを乗せております。予算としましては、中学校費でバスを購入いたしましたんで、ここで予算計上させていただいております。

以上です。

○議長（森本隆夫君） 総務課長潮崎君。

○参事（総務課長）（潮崎有功君） 168ページの特別職の関係でございます。

この特別職といいますのは、選挙であるとか、調査ものであるとか、一般に言う特別職ということではなく臨時的に出ました統計調査、まあ国勢調査も含めますけども、そのときに委嘱した臨時的なものということで御理解いただきたいと思います。

この178名、国勢調査のときは町内全域にわたりまして調査員というのを委嘱いたします。そういう統計調査、選挙のある、ない年ということで、この人数がふえたり減ったりということになります。よろしくをお願いいたします。

○議長（森本隆夫君） 8番東君。

○8番（東 信介君） 1回目ちょっと聞き忘れたの、もう一件あるんですけど、構わんですか。前で聞き忘れたんですけど。ほかのことはもう大体わかったんですけど、済いません、もう一度、139ページの委託費の中の下の2つなんですけど、教育研究委託と生徒指導研究委託というの、これどのようなことを、何名ぐらいでどのようなことをやられてるのかなあというの、教えていただきたいんです。

○議長（森本隆夫君） 教育次長小玉君。

○教育次長（小玉常夫君） 失礼しました。教育研究委託、委託費の209万8,000円でございます。

これは教員の7つの研究会に対する委託費でございます。

1つは、町教育研究会、これへ105万円、特別支援教育研究会、これが20万円、人権教育研究会20万円、校長会教育研究会18万円、教頭研究会8万8,000円、保健主事研究会3万円、教育研究指定校、これは毎年何校か指定されるような県の制度なんです、24年度は3校指定ありまして35万円、この7つの研究会に対して委託するものでございます。

その下の生徒指導研究委託、これは那智勝浦町独自の委託費170万円でございます。これはいじめとか登校拒否がいろいろと問題になっておりまして、それらに対して各学校、町全体で取り組んでいくという、主な内容はそのようなものでございます。小学校が70万円、中学校へ100万円委託費として渡しております。

以上です。

○議長（森本隆夫君） 8番東君。

○8番（東 信介君） 町教育研究会へ100万円ぐらいですか、これどのようなことをやられてるんですかね。で、どういうところでどのぐらいの先生らが。その生徒指導というのもあらかじめ結構なんですけど、そういう内容とか、どのような形でどういうことをやられているとかというのがわかりますか。

○議長（森本隆夫君） 教育次長小玉君。

○教育次長（小玉常夫君） ちょっと手元に資料がないので、詳しいことは、中身までは説明できないんですが、とりあえずそれぞれのこの研究会、各学校の先生が入られておりまして、それぞれの研究を深めていって、ふだんの授業に役立てていくと、生徒指導を十分対応していくと、そのようなことでお願いしております。

それと、生徒指導につきましては、もうかなり以前、湯浅町長時代にその当時の町長が、とにかくほかの町村にないような調査研究をせいというようなことで、当初たしか300万円ほどの予算で始まったように聞いております。それがいろんな諸事情で170万円まで下げられたわけなんです、一番くくりのない、一番活動しやすいといいますか、いろんな広い意味で対応しやすいようなことで各学校の先生たち、非常に喜んで研究されておるといふふうに聞いております。

○議長（森本隆夫君） 8番東君。

○8番（東 信介君） また後々で結構なんです、どういうようなことをやられてるといふのが、ちょっと知りたいので、済いませませんが、またよろしく申し上げます。

○議長（森本隆夫君） 教育次長小玉君。

○教育次長（小玉常夫君） 後ほど資料的なものをお渡しさせていただきます。

○議長（森本隆夫君） ほかに質疑ありませんか。

11番中岩君。

○11番（中岩和子君） 1点、お尋ねをいたします。

166ページ的那智の滝源流水資源保全事業基金積立金というのがございますけど、これは以

前からずっと那智の滝の源流を守るということでやっておりますが、今回この那智の滝の源流が非常に大変な状況になっております。あちらのほうについては国直轄でやってくれるというお話でございますけど、まだこれは国のほうで予算とってないのかどうか、今国会が参議院のほうへ回っておりますけど、どうなるか。これが100%国がやってくれるんでしたら問題はないんですけど、何だかやっぱり70%である、80%である、国のほうがやってくれる、あとはこちらのほうというような状況になったときに、この那智の滝の源流を守るということで、この今まで積み立ててきた、このお金を使うことはできないのでしょうか。そこのところをお尋ねいたします。使えるかどうか、お尋ねをいたします。

○議長（森本隆夫君） 建設課長塩地君。

○建設課長（塩地勇夫君） 濟いません、那智の滝の源流ということで那智の滝より上に関しては国の工事どうこうというのはまだ決まっております。ただ、砂防が、今言うように那智の滝の砂防7カ所は今もう既に入札等が終わって工事をやっているとあります。

以上です。

○議長（森本隆夫君） 11番中岩君。

○11番（中岩和子君） 那智の滝よりか奥なんです。二の滝、三の滝から、それから山のほうを那智の滝の源流というんやと思うんですけど、その部分ではだめなんですかということなんです。

○議長（森本隆夫君） 観光産業課長瀧本君。

○観光産業課長（瀧本雄之君） 那智の滝より上流の部分につきましては、民有含めて国有林すべてでございます、その何カ所かがけ崩れ等ありますが、どのように復興するかどうか、まだ全然手つかずの状態であります。ですから、基金を使って云々までの話にはまだいきそうにございません。

○議長（森本隆夫君） 教育次長小玉君。

○教育次長（小玉常夫君） 先ほどの教育研究委託費209万8,000円と生徒指導研究委託170万円について、資料がありましたので報告させていただきます。

教育研究委託、那智勝浦町教育研究会105万円につきましては、町の教員全体で取り組み、教育向上のための研修や講演等実施しております。それと、特別支援教育研究会20万円、これは特別支援学級のある学校へ1校5万円ということで支給しております。それと、校長会研究会、これは11校分1万5,000円ずつ、それと教頭会研究会、これは教頭のない浦神小学校を除いた10校分8,800円、それと教育研究指定校35万円、これは特別支援教室モデル事業委託、教育実践研究事業委託等、3つの学校が受けております。

それと、生徒指導研究委託の170万円でございます。目的は問題行動、いじめ問題、学校安全、不審者対策などに係る問題の解決や未然防止ということでございます。事業内容としまして人権教育の推進、防犯教室、交通安全教室、水泳等安全対策ということで、中身は講師の謝礼、研修費用、校内掲示用品、関係図書の購入等となっております。

以上です。

○議長（森本隆夫君） 総務課長潮崎君。

○参事（総務課長）（潮崎有功君） お答えいたします。

この那智の滝源流水資源保全基金といいますのは、あくまで源流を保全するというのでございまして、工事に関係するものについては使えないと思います。

○議長（森本隆夫君） ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森本隆夫君） 質疑なしと認め、款7土木費122ページから款13予備費167ページ、給与明細書168から174ページまで及び175ページまでと、1ページから15ページまでの土木費から予備費までの部分の質疑を一時中止します。

以上で議案第1号について歳入歳出の質疑が一通り終わりましたので、総括質疑を行います。

11番中岩君。

○11番（中岩和子君） 今回の予算書を見ますと、非常に大変な額の起債があると思うんです。

先ほども言われておりましたが、22年度から24年度までにかけての間に22億7,809万2,000円ふえるというようなお答えも聞いております。

この予算の中で一体うちの町は幾ら、家庭で言う借金があるんか、また収入はどれぐらいあるんやろか、また2年、3年後になったら幾らずつ返していかなんやろか、そういうふうな試算はされているのでしょうか。もちろんされていると思いますんで、そのところをお教えいただきたいと思います。

○議長（森本隆夫君） 総務課長潮崎君。

○参事（総務課長）（潮崎有功君） 借金といいますか、それにつきましては、もう公債費のほうで御説明させていただきました。

今後の那智勝浦町の財政ということになるかと思いますが。災害復旧を初めといたしまして、基金の取り崩しも13億円の基金も取り崩しております。ただ、先ほど申し上げましたように、本町の場合、交付税措置の率のいいものを起債を優先しているというお話をさせていただきました。今後の事業展開には財政状況を把握しながら進めていかなければと考えてございまして、よろしく願いいたします。

○議長（森本隆夫君） 11番中岩君。

○11番（中岩和子君） 今後クリーンセンターやとか南紀園やとか、いろんなこともまだまだ入ってくると思うんですけど、そういうふうなことも加味していろいろ計画を立てられていると思うんですけど、その点はいかがでしょう。

○議長（森本隆夫君） 総務課長潮崎君。

○参事（総務課長）（潮崎有功君） そのようにさせていただきます。よろしく願いいたします。

○議長（森本隆夫君） 町長寺本君。

○町長（寺本真一君） お答えします。

当初、この災害以前は過疎債も含めて過疎計画の中で順次どのような起債を起こして事業を進めていくかということはありませんでした。今回の災害において農林の災害復旧については九五、六％という最高額のほうと、40万円未満の少額の災害については県の2分の1の補助とかという、そういう部分についての金額もこれにのってきてますので、土木関係は85％という形でのってきてますので、さほどその部分についての大きな町の負担というのは、あるにはあつて、基金のほうも取り崩ししておりますけれども、今後そういうのも加味しながら、事業の展開については十分心得てまいりたいと考えます。

○議長（森本隆夫君） ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森本隆夫君） 質疑なしと認め、以上で議案第1号について質疑を終結することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森本隆夫君） 異議なしと認め、質疑を終結します。

討論を行います。

討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森本隆夫君） 討論を終結することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森本隆夫君） 異議なしと認め、討論を終結します。

採決を行います。

議案第1号について原案のとおり可決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森本隆夫君） 異議なしと認め、本件は原案のとおり可決されました。

以上で本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれで散会いたします。

~~~~~ ○ ~~~~~

14時35分 散会